

心豊かに暮らし続けられる
共創・自立・循環の
宝の島 対馬

第3次対馬市総合計画

(素案)



目次

第1章 序論 ----- 1

- 1. 本計画の見方・使い方・実施主体 ----- 2
- 2. 計画の位置づけと期間 ----- 4
- 3. 対馬の魅力 ----- 5
- 4. 未来に残したい対馬の豊かさ ----- 9
- 5. SDGs(持続可能な開発目標)について ----- 10

第2章 構想 ----- 11

- 1. 将来の見込み----- 12
- 2. しまづくりの行動指針 ----- 17
- 3. 10年後の目標 [ありたい対馬の姿] ----- 18
- 4. しまづくりテーマと目指す姿 ----- 21

第3章 戦略 ----- 33

- 1. 5年間の目標 ----- 34
- 2. 戦略の方針 ----- 35

資料編 ----- 73

第1章

序 論

第3次対馬市総合計画は、人口減少という現実から目を背けることなく、すべてを維持するのではなく、攻めるべきもの、守るべきものを選び、限られた資源を重点的に投入する視点を持ちます。また、国にとっても重要な有人国境離島に住む市民の命と暮らしを支える地域構造への転換を重要な視点に位置づけます。

市民、地域、事業者、国・県等との役割分担により、対馬に生まれ、住み、関わることに誇りを持てる島を次の世代へ確実に引き継ぐことを目指します。

1. 本計画の見方・使い方・実施主体

(1) 見方・使い方

第3次対馬市総合計画(以下、「本計画」という。)は、私たちの対馬のありたい姿(5年後・10年後の目標)を設定・共有し、行政と市民がそこに向かって協力しあって取り組んでいくための道しるべ(方針)となる計画です。

この計画は、行政だけで完結するものではなく、市民や地域団体、事業者の方々とともに使い、行動につなげることで力を発揮する計画であり、市職員や事業者、地域団体、地域住民等、市民一人ひとりが役割を担い、協力・連携してしまづくりに取り組むことが大切です。

本計画は、対馬市のしまづくりの中長期の目標・方針を示す最上位計画として、大きく2つの役割を担っています。

「行政」にとっては、**計画的な行政運営の指針**となる

- 各部署の創意工夫が活き、時代の流れに応じて柔軟に地域課題に対応できるよう、本計画は、今後10年間の道筋を示すことに着目した指針となる。
- 各部署の個別分野計画や事業の組成・実行、より良い行政サービスの展開のよりどころとなる。
- しまづくりの焦点が定まり、一丸となった市政運営を進められる羅針盤となる。

「市民」や「地域」にとっては、**協働や行動のよりどころ**となる

- 行政と市民の協働の土台となる。
- 自分たちの島をどう良くしていくか、地域の活動をどう広げていくかを考えるきっかけとなる。
- より良い対馬を子や孫に伝えるための意識変容と行動のきっかけとなる。

なお、本計画は、地方版総合戦略*を一体化して策定するものとします。国が示す「地方創生2.0 基本構想*」、長崎県が定める第3期総合戦略を踏まえながら、対馬のあるべき姿に向けた施策を、力強く推し進めます。また、戦略の方針及び成果指標では、地方創生のアイコン **地方創生** を掲載しています。

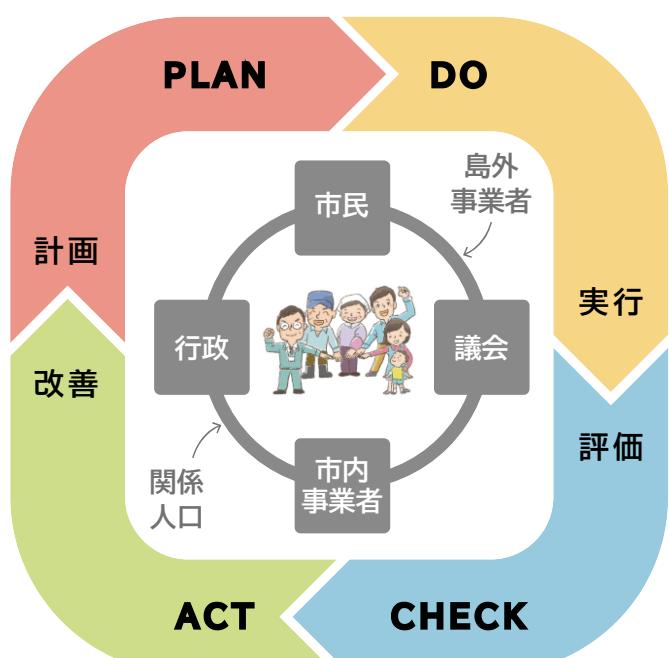
(2) 実施主体

本計画の4つのテーマ「ひと・なりわい・つながり・ふるさと」の各施策を優先的に実行し、「心豊かに暮らし続けられる共創・自立・循環の宝島 対馬」を実現するために、各主体が力をあわせて取り組むこと(協働)が求められます。

主体	主な役割
行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 本計画の策定 ● 効率的で効果的な施策展開 ● 各事業の実施 ● 進捗管理・計画の改善
市民	<ul style="list-style-type: none"> ● 本計画策定の過程での意見の提供 ● 行政と連携したしまづくりの事業や取組みの実施 ● 評価・改善の指摘
市内事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 官民連携によるしまづくりへの参画 ● 本計画策定の過程での意見の提供 ● 行政と連携したしまづくりの事業や取組みの実施 ● 評価・改善の指摘
議員	<ul style="list-style-type: none"> ● 本計画が効率的・効果的に進むように行政を監視 ● 市民の声を各課題・施策に反映させるための政策提言 ● 対馬づくりの仕掛け人 ● 総合計画・各施策実行の意思決定 ● 計画進捗の評価・意見

市民・事業者・行政職員・議員それが自分事として、「何ができるか？」 「これはできそう！」「これをしたい！」といった想いを持って、地域課題に向き合い、自ら考え実行することが、しまづくりにとても大切です。

本計画は、市民・事業者・行政職員・議員が主体となって、島外事業者や関係人口と共に協働しながら、P(計画)→D(実行)→C(評価)→A(改善)のプロセスで適切に運用します。



2. 計画の位置づけと期間

本計画は、対馬市の全分野別計画の最上位の計画として、「構想」と「戦略」で構成します。

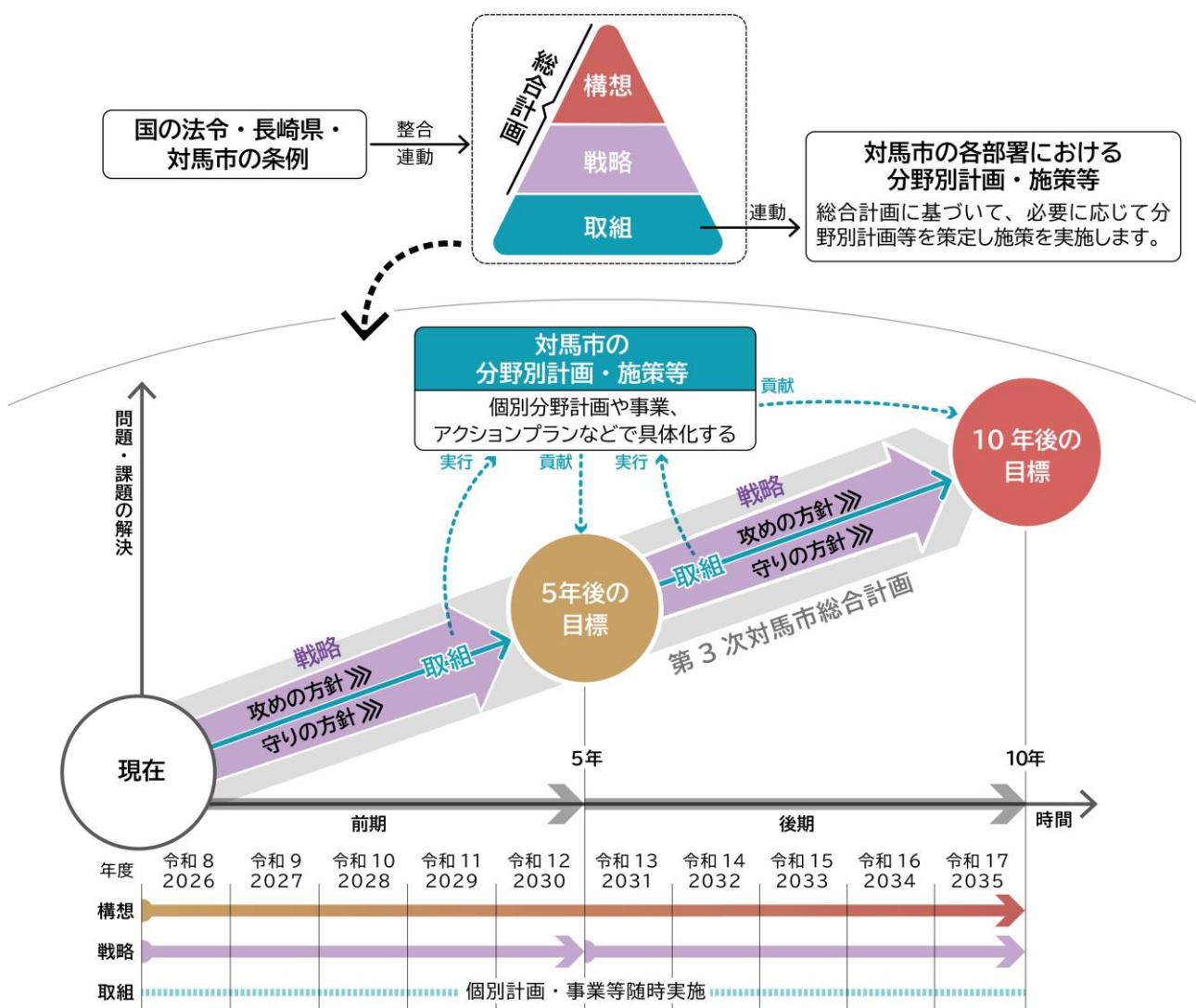
「構想」は、目指すありたい姿として「10年後の目標」を掲げ、中長期的な「しまづくりテーマ」と「目指す姿」を示します。

「戦略」は、構想に基づいて定め、まずは「5年後の目標」を位置づけ、5年間で特に力を入れて挑戦する方針や継続的に進めていくべき方針を記載し、戦略的に取り組みます。

5年後には、進捗を評価し、10年後の目標までの道筋を軌道修正し、残りの5年間（後期）の戦略を決定します。

各目標に向けて、市として特に力を入れて取り組むべき”攻め”の道筋を「攻めの方針」として示し、持続可能な行政サービスや市民生活に必要な基礎基盤となる”守る”道筋として、「守りの方針」を定めます。

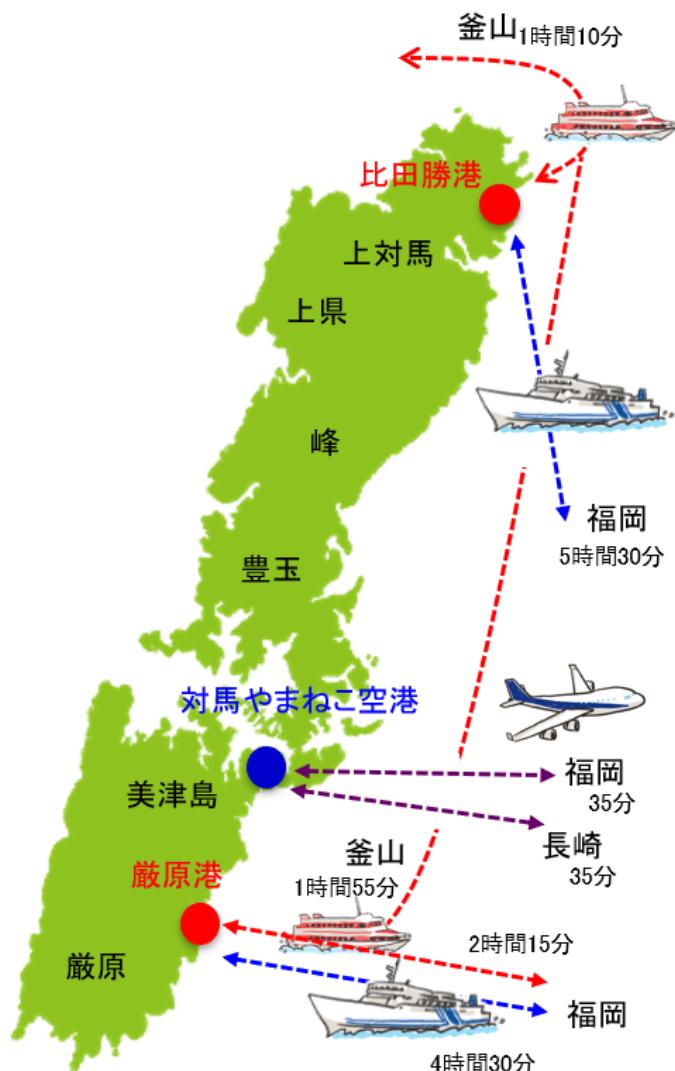
こうした目標と方針を踏まえ、各部署の創意工夫を發揮し、個別分野計画や事業、アクションプラン等で具体的な取組を進めます。



3. 対馬の魅力

(1) 概況

韓国に一番近い島(49.5km)。
日本で三番目に大きい島(709km²)。
固有の動植物を大切に守り、伝えてきた島
対馬には、誇るものがたくさんあります。



プロフィール

位置

九州の最北端に位置し、南北に82km、東西に18kmと細長く、海岸線は915km、標高500m前後の山々からなる島であり、福岡までは、海路138km、釜山まではわずか49.5kmである。

気候

暖流である対馬海流が対馬を二分して北流しているため、年平均気温は約15℃と比較的温暖である。秋から初春にかけては大陸から吹く北西の季節風の影響を受け冷え込むことが多いが、四方を海に囲まれているため雪はほとんど降らない。夏は、海風により大地に熱がたまらないため、本土よりも涼しく、9月は台風シーズンで雨量も増すが、直撃することは少ない。

アクセス

島外の交通は、航空路と海路がある。航空路は対馬やまねこ空港から福岡空港・長崎空港へそれぞれ就航し、海路は嶌原港から博多港に高速船とフェリーが、比田勝港から博多港にフェリーが、嶌原港・比田勝港から釜山に高速船が、それぞれ運航している。島内の交通手段は、自家用車または、バス・タクシーである。



市の花 玄海つつじ



市の木 ひとつばたご



市の鳥 高麗きじ

(2) ひと

魅力的な人々が暮らす島

多くの市民が、対馬の人は「親切で、人情に厚く、優しい」と認識しています。また、移住者や対馬に学びにきた大学生も声をそろえて対馬の人の良さに感動したと言っています。特に、おすそわけ文化は都会の若者を魅了し、再来島する学生も多くいます。

対馬には、豊かな自然の中で培われ、継承された伝統や文化、暮らしの知恵・技術等が多く残っています。例えば、山の斜面を利用した伝統的焼畑農法である木庭作(こばさく)、原種に近いソバや在来種の赤米の栽培、ニホンミツバチの養蜂、磯の資源採取を行う採介藻漁業等があげられます。

また、対馬ならではの食文化も残っています。さつまいもを原料に女性たちによって代々受け継がれてきた「せん」は対馬の自然環境や歴史が生んだ伝統的な保存食で、ろくべえやせんちまきなど、せんを使った数々の料理へと姿を変えます。さらに、かつて漁師が浜辺で暖をとりつつ、熱した石英斑岩の上で新鮮な魚介類を焼いて味わったことに始まる石焼料理も対馬の郷土料理のひとつとして親しまれています。

伝統的な祭りや地域行事等も多く残っており、農村や漁村集落における住民の絆は強く、日々の暮らしの中で助け合い、支え合う精神を持っていることは、対馬が誇るべき魅力です。



ニホンミツバチの蜂蜜



せん



石焼き

(3) なりわい

森里海の資源の豊かな島

対馬市の産業は周囲に広がる豊富な漁場と広大な山々によって支えられ、発展してきました。国内でも有数の水揚げ高を誇る水産業、豊富な森林資源を活用した製材やしいたけの生産を中心とする林業、そして地の利を生かした観光業が主要な産業です。

島を囲む漁場は対馬暖流と沿岸水の混合によって変化に富み、沿岸一帯は磯場が広がる好漁場として、アワビやサザエ、ウニ等の磯もの、ブリ、アジ、サバ、イカ、タイ、アナゴ等の水揚げがあり、アナゴは、日本屈指の水揚げ量を誇ります。また、浅茅湾を中心にマグロや真珠、ヒオウギガイ等が養殖されています。

対馬のひのき材(対州桧)は材質が硬く、心材は淡いピンク色をして、香り高いことが特徴です。また、しいたけは、長崎県内生産量の99%を対馬が占めています。乾しいたけは、肉厚の「どんこ」が特に良質で、全国しいたけ品評会においても高い評価を受けています。

対馬の農地は陸地の 1.3%ですが、米づくりに加え“対州そば”的栽培も盛んです。近年では、ツシマヤマネコと共生する農業を目指して減農薬や有機農法による米づくりが上県町佐護地区等で行われ、佐護ツシマヤマネコ米としてブランド化されています。



マアナゴ



甘鯛の刺身盛合せ



対馬産のひのき



しいたけ

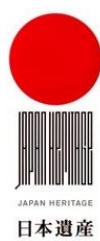
(4) つながり

大陸と日本をつなぐ日本遺産の島

日本本土と大陸の中間に位置することから、対馬は、古代よりこれらを海上交通で結ぶ交易・交流の拠点でした。特に朝鮮との関わりは深く、中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を担い、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えました。その後、中継地の役割は希薄になりましたが、史跡や城跡、特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が伺えます。

例えば、対馬の文化財 13 点が日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋」構成文化財に認定されています。また、日本ではこの地方だけで見られる独特の建物で県指定有形文化財に指定されている厳原町椎根の石屋根倉庫は、多くの観光客が訪れています。

対馬は、現在も日本とアジアの国際交流の架け橋となっており、朝鮮通信使行列の再現をはじめ、国境マラソンや日韓合同海岸清掃活動等、様々な日韓交流イベントが行われています。また、対馬高校ではハングルや韓国文化を学ぶ国際文化交流コースが設置され、未来の日本を担う高校生が国際交流の基礎を習得しています。



金田城跡	対馬の亀ト習俗	豆酸の赤米行事
対馬藩主宗家墓所	万松院の三具足	銅像如来坐像
清水山城跡	金石城跡	旧金石城庭園
朝鮮国信使絵巻	対馬藩お船江跡	佐須奈港 (佐須奈日向改番所跡)
鰐浦 (朝鮮通信使寄港地、ヒトヅバタコ自生地)		

日本遺産に指定された 13 点



海栗島と韓国夜景



椎根の石屋根倉庫



お船江跡



金田城跡

(5) ふるさと

美しい自然が残る島

対馬は 89%が山林で占められており、雄大で美しい自然に覆われています。厳原町の龍良山や美津島町の白嶽には原始林が残っており、国の天然記念物に指定されています。中央部の浅茅湾は複雑に入り組んだアリス式海岸であり、真珠・マグロ等の養殖業やマリンレジャーを支えています。

ツシマヤマネコをはじめ、ツシマテン、チョウセンイタチ、ツシマサンショウウオ等、対馬の生き物には、かつて大陸と陸続きであった「島」ならではの地理的・歴史的な条件が色濃く反映されています。最近では、琉球大学の調査チームによりカワウソが発見され、話題となりました。対馬の自然の豊かさを実証するとともに、大陸との近さを実感する出来事となりました。

対馬は、渡鳥にとってロシア・中国等の繁殖地と、東南アジア等の越冬地の中間に位置するため、春と秋の渡りの時期には、アカハラダカやヤマショウビン等の数多くの珍しい野鳥を観察することができます。

植物に目を向けると、島内には原始の照葉樹林が数多く残っています。また、ヒツバタゴやゲンカイツツジ、オウゴンオニユリ等、四季折々の美しい植物が花を咲かせ、人々を魅了します。また、大陸に近いという地理的条件から、日本では対馬にしか生息しない植物が多いのも特徴です。ウスギワニグチソウやツシマギボウシ、ハクウンキスゲ等、春から秋にかけて咲く貴重な花々も見られます。



白嶽



浅茅湾



ツシマヤマネコ

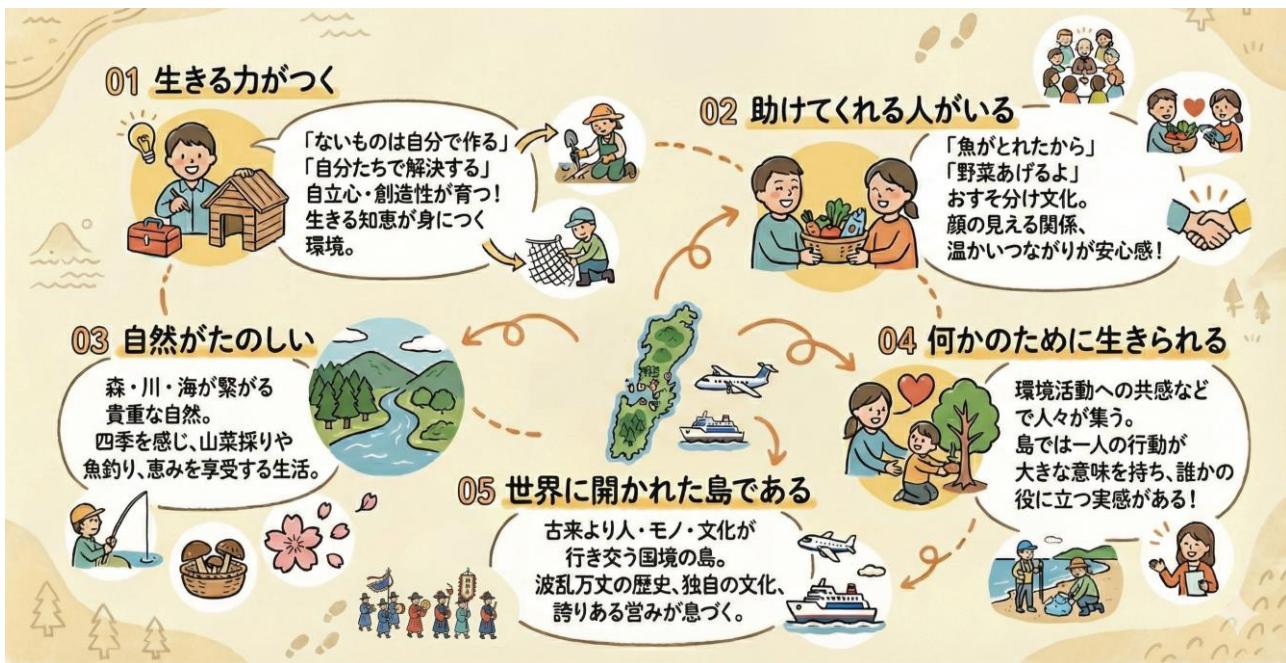


ゲンカイツツジ

4. 未来に残したい対馬の豊かさ

私たちの島、対馬にあるかけがえのない豊かさ、歴史、文化に改めて目を向けてみませんか？

人のあたたかさや力強さ、豊かな環境、対馬の誇りを、みんなが実感し再認識することは、将来のしまづくりに大きな原動力となります。



01 生きる力がつく

都市部と変わらない生活基盤がありますが、時にはモノやサービスがすぐ手に入らないこともあります。「ないものは自分で作る」「自分たちで解決する」という自立心や創造性が育ち、「生きる知恵」や「工夫して乗り越える力」が身につく環境もあります。

02 助けてくれる人がいる

「魚がとれたから」「野菜がたくさんできたらあげるよ」といったおすそ分け文化や顔の見える関係性があります。地縁や血縁、思いやり、信頼などが人々を結び、こうした温かいつながりが安心感を教えてくれます

03 自然がたのしい

固有の貴重な自然環境があり、日々の暮らしの中で森と川と海が繋がっていることが実感できます。四季の移ろいを感じ、山菜採りや魚釣りなど、山の恵みや海の恵みを享受した生活ができます。

04 何かのために生きられる

森や海への憧れ、生態系への関心、環境活動への共感などを持った人々が対馬に集まっています。島の中では一人一人の行動が大きな意味を持ち、自分の力が誰かの役に立つと実感できる土壌があります。

05 世界に開かれた島である

対馬は古来より、人・モノ・文化・知恵が行き交い、国を越えた交流や絆が生まれる、世界に開かれた国境の島です。だからこそ、波乱万丈の歴史や独自の文化、風土に根ざした暮らしが今も息づいています。海外と日本をつなぐ国境離島で生き、この島で受け継がれてきた営みこそ、島に生きる人々の誇りであり、国の宝です。

5. SDGs(持続可能な開発目標)について

- ・「SDGs(持続可能な開発目標) Sustainable Development Goals」は、2015 年(平成 27 年)9 月の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、17 のゴールと 169 のターゲットで構成され、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むための国際社会全体の目標です。
- ・地方自治体にとっても、SDGs 達成へ向けた取組は、人口減少、地域経済の縮小等の地域が抱える課題の解決に資するものであり、多様なステークホルダー*と連携のうえ、SDGs を原動力とした地方創生を推進することが期待されています。
- ・SDGs の理念は、本計画の施策の方向性とも重なっており、本計画の施策を着実に進めていくことが、SDGs の推進につながるものと考えています。
- ・対馬市民と共に SDGs の推進に取組み、市としての役割や使命を果たすことで、SDGs の目標達成に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典:SDGs ポスター(17 のアイコン 日本語版)

- ・本計画の方針には、特に関わりが深いと考えられる SDGs のアイコンを掲載しています。なお、掲載していないアイコンとの関係を否定するものではありません。



第2章

構想

1. 将来の見込み

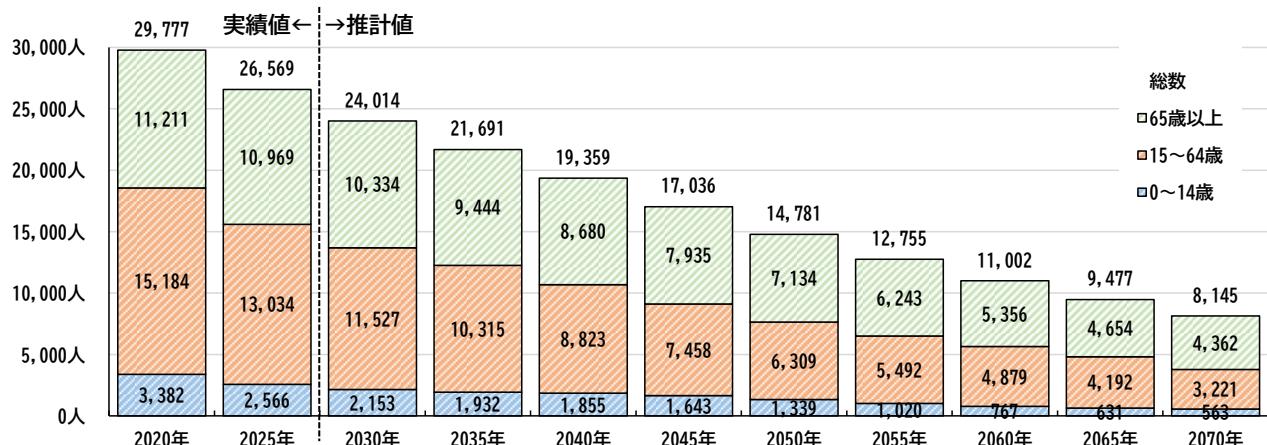
今後のしまづくりを考えるにあたり、対馬市の幅広い分野に関わる今後の社会変化の見込みを整理します。

(1) 「ひと」に関する見込み

人口減少が早く進み、2035年には21,691人になる見込み

人口減少・少子高齢化がますます進み、2030年には24,014人、2035年には21,691人になることが予想されています。2035年には、生産年齢人口1人で高齢者1人を支えることとなります。

[将来人口推計]

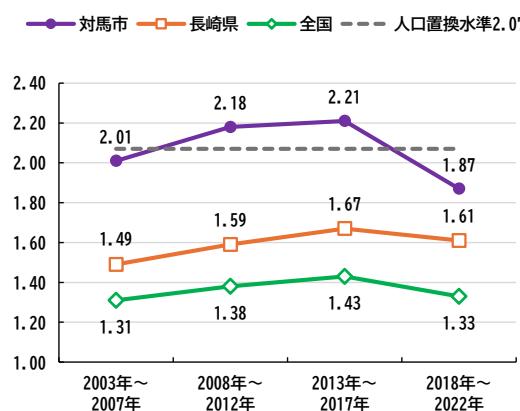


データ:将来人口推計のためのワークシート(令和6年6月版) 住民基本台帳人口を基準人口とした場合

少子化が続く見込み

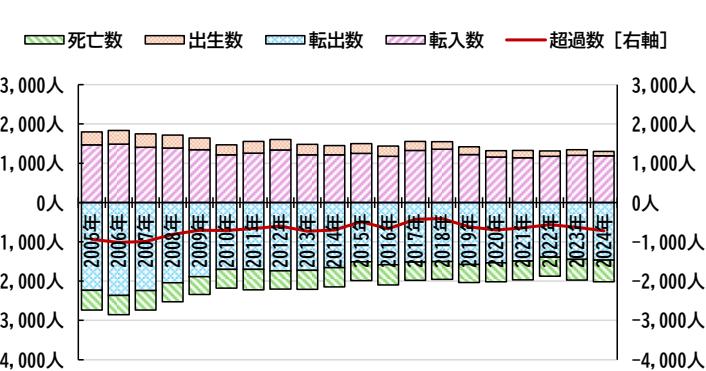
対馬市の合計特殊出生率*は、全国・県よりも高く、全国でもかなり上位(40位／1,724市区町村)です。しかし、少子化傾向で人口置換水準*を下回っており、減少傾向であるため、産まれる子どもの数が減る傾向が続くと予想されます。

[合計特殊出生率]



データ:人口動態統計特殊報告

[人口動態]



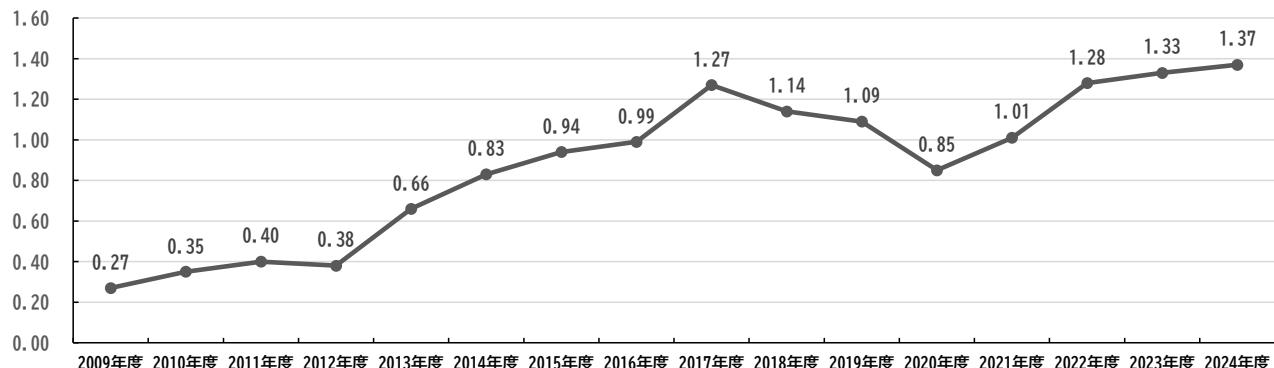
データ:住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

(2) 「なりわい」に関する見込み

担い手不足がより進む見込み

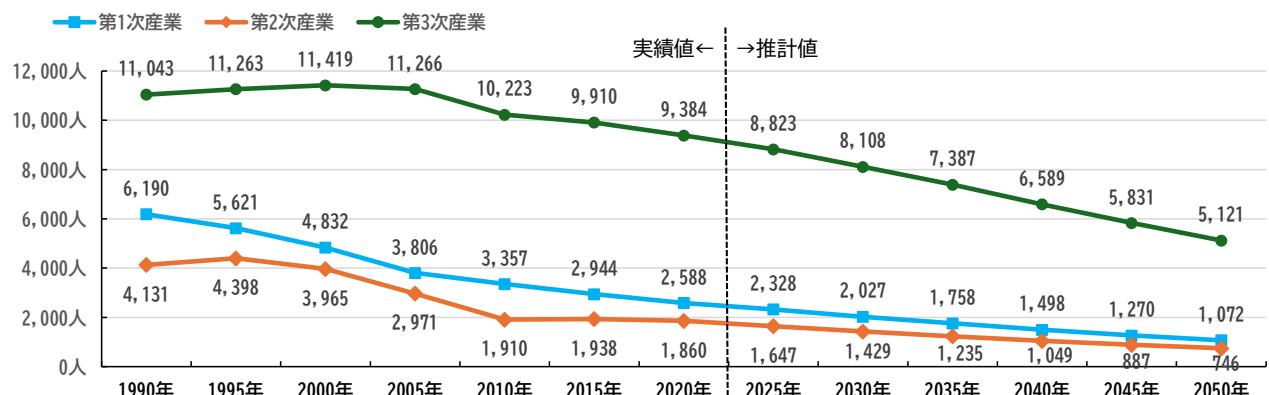
有効求人倍率が右肩上がりで上昇しており、求人をしても働き手がない状態が続いています。人口減少や生産年齢人口の減少が進む中、産業人口も減少傾向が続くと予想され、あらゆる場面で担い手が不足することが予想されます。

[有効求人倍率]



データ:長崎県の雇用失業情勢(令和7年9月分)について

[産業人口]



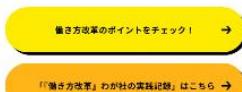
データ:国勢調査と将来人口推計を用いて推計

働き方ニーズの多様化がより進む

少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、育児や介護との両立など、働き手のニーズの多様化などの状況に直面しています。こうした中、働き方改革が国・企業ともに進められており、対馬市においても、今後、投資やイノベーション*による生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に發揮できる環境を作ることが重要となります。

NEXT WORK STYLE

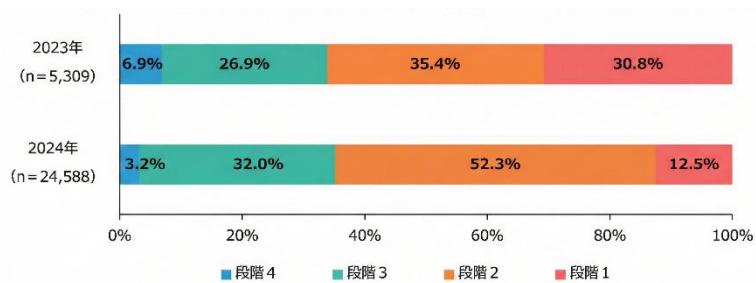
働き方改革広がる



出典:厚生労働省ホームページ

便利な生活や業務効率化に向けてより DX*が進む

人口減少・担い手不足の社会にあっても、社会や産業が機能し続けられるよう、DX（デジタル化、自動化、AI 活用）などが進み、より、一人あたりの生産性を高めていく社会が進むと予想されます。そのため行政・企業が時代の変化に対応した新しい視点や柔軟な手法を取り入れ、事業環境の変化に迅速に適応し続けることが求められてきます。また、あらゆる人がデジタル技術に対応できるように、個人の成長も求められます。



資料：（株）帝国データバンク「令和6年度中小企業の経営課題と事業活動に関する調査」「中小企業が直面する外部環境の変化に関する調査」

(注) デジタル化の取組段階については、以下のとおり。

段階4：デジタル化によるビジネスモデルの変革や競争力強化に取り組んでいる状態

段階3：デジタル化による業務効率化やデータ分析に取り組んでいる状態

段階2：アナログな状況からデジタルツールを利用した業務環境に移行している状態

段階1：紙や口頭による業務が中心で、デジタル化が図られていない状態

出典：2025 年度版 中小企業白書

(3) 「つながり」に関する見込み

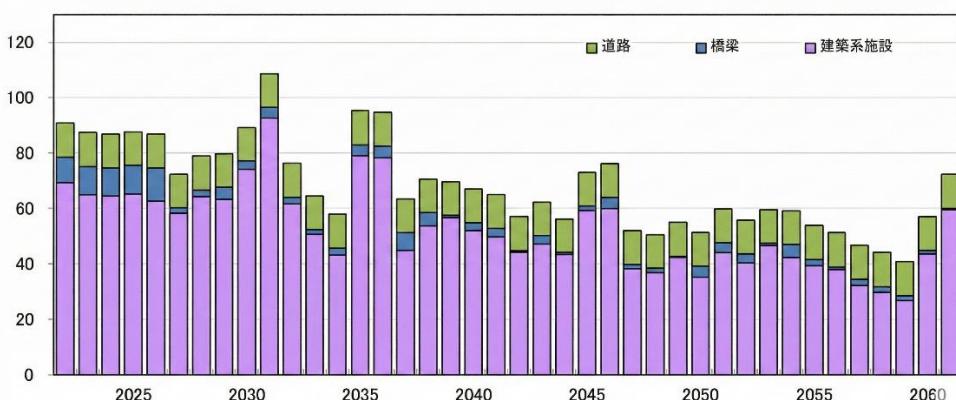
公共施設等の維持・更新に多額な費用がかかる見込み 計画的な保有量削減が進む

今後の生産年齢人口の減少等や社会情勢の変化により、厳しい財政状況が予想されます。老朽化が進む施設がある中、建物系施設・インフラ施設(上水道除く)の 20 年間の年平均維持費用は、79.6 億円※の費用が必要となる見込みです。

こうした状況を踏まえ、地域バランスのとれた、良質で持続可能な公共サービスが実現できるよう、公共施設等の保有量を適切に・計画的に削減していくことが求められます。

※建築系施設は、現存するすべての施設を現在と同じ規模で更新した場合。[参考]令和6年度の歳入額 344 億円に対して 23.1%

[公共施設等の将来更新費(上水道を除く)]
(億円)



データ：対馬市公共施設等総合管理計画

移動手段が変化する

地域交通は、買い物・医療・教育等、日常生活を営むためには不可欠なサービスへのアクセスという重要な役割を担っているものの、人口減少や高齢化等による長期的な需要の減少や運転者不足、財政負担等、今後も厳しい状況となることが予想されます。こうした中、交通DX*、自動運転技術、ライドシェア*、デマンド型乗り合いタクシー*、MaaS *といった交通サービスが全国各地で実装され、対馬市でも適切な交通サービスの検討を進めなければなりません。

[公共ライドシェア]



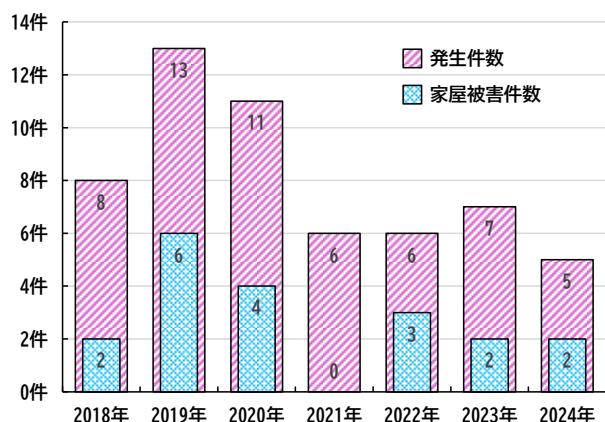
出典:国土交通省「交通空白」解消本部ホームページ

異常気象による災害の激甚化・頻発化が進む恐れ

地球温暖化は進んでおり、これにより異常気象による災害が激甚化・頻発化しています。気温上昇や、台風・水害・土砂災害等の気象災害をもたらす豪雨、海面上昇など、異常気象が日常化する恐れがあります。対馬市でも、海面上昇による浸水・冠水被害や台風被害、渇水もありました。

気候変動はすぐには解決が難しいことから、今後も異常気象が発生する恐れがあります。

[災害発生件数(台風・大雨等)]



データ:総務課地域安全防災室

[大潮満潮時に海水で冠水した道路]



出典:対馬市 SDGs アクションプラン

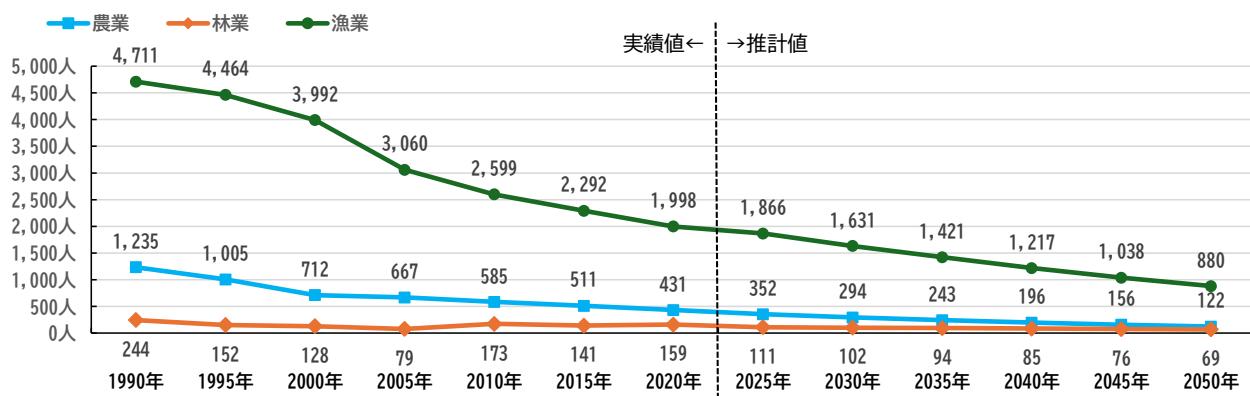
(4) 「ふるさと」に関する見込み

市民の豊かさにも直結する自然管理がより大切となる

対馬の豊かな自然・水・生物多様性*があることで、人の暮らしや産業・社会経済が発展し、対馬固有の風土・歴史文化が育まれたことで、対馬人としての誇りが形成されてきました。

しかし、農林水産業や自然環境を管理する担い手の不足が顕著になり、遊休農地や所有者・管理者不明の山林が増えることで、生物多様性の保全や森林資源の管理が行き届かず、山が荒れ、山の保水力も弱まっています。バランスがとれた生物多様性の保全や生活に必要な水の確保、持続可能な農林水産業のためにも、対馬の豊かさの象徴である自然管理の必要性が高まる予想されます。

[第1次産業人口]



データ：国勢調査と将来人口推計を用いて推計

島の存続や集落のあり方、移住者確保に向け、より真剣に考える場面が増える

市全体で人口減少が進みますが、特に小規模集落で [小地域ごとの将来人口(2035年)] は存続が危ぶまれます。さらに、世帯数減少が進み、空家も増えてくると予想されます。また、子どもの減少に伴い、学校の存続にも影響してきます。

[小学校・中学校学級数]

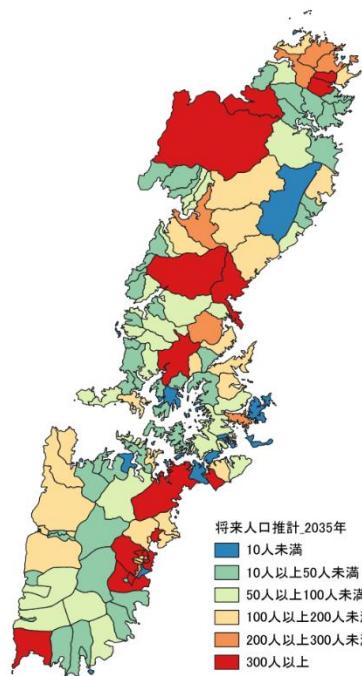
	令和2年			令和6年		
	小学校	129	単式 71・複式 25・特支 33	中学校	54	単式 41・複式 0・特支 13

データ：対馬市教育要覧

[世帯数(=空家增加見込み)の将来予測]



16 データ：対馬市空家等対策計画



データ：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3(世帯予測実装版)」を用いた計算結果を加工して作成

2. しまづくりの行動指針

「しまづくりの行動指針」は、対馬に住む私たち一人ひとりが、島の未来をつくるためにどのような姿勢で行動すべきかを示した行動指針です。

これは、行政が一方的に市民に求める「ルール」や「義務」ではありません。

私たちが未来に残したい対馬の豊かな価値を守っていくため、みんなで共有し実践する「心構え」であり「行動のスタートボタン」です。



3. 10年後の目標 [ありたい対馬の姿]

心豊かに暮らし続けられる

・ ・  の宝島 対馬

私たちがめざす対馬の未来は、「ここに生まれてよかった」「ここで暮らしてよかった」「これからもこの島で暮らしたい」「対馬に誇りを持っている」と、誰もが心から思える島です。

人と人、地域と地域、島内外のつながりが大切にされ、あたらしい価値や活動がみんなの手で生み出されている島。

子や孫、さらにその先の世代まで、美しい自然との共生、家族や地域コミュニティのつながり、歴史の継承など、心の豊かさを大切にする暮らしが守り続けられている島。

島外から見ても、島内から見ても、かけがえのない故郷として大切にされる島。

そして、有人国境離島として、海外との交流・物流・国防を支えてきたプライドを持つ島。

そのような、「共創・自立・循環」が根づいた“宝島”のような対馬をつくっていきます。

将来人口推計

対馬市における人口変化は、「社会増減*」が大きく影響すると考えられます。ここで、社会増減に着目して将来人口を推計すると、下表のとおりの結果となります。

パターンAは、対策を講じず、過去の傾向が続くと想定した場合の推計です。パターンBはベース推計から、施策を講じた結果、2031年以降で全年齢における社会移動がゼロを達成した場合の推計で、パターンAより、人口減少の抑制効果が高くなっています。パターンCは、施策を講じた結果、20~30代が増える(移動均衡*以上とする)ことが達成した場合の推計で、20~30代への限られた効果でも、パターンBと同等の人口減少抑制効果があることがわかります。

本計画では、パターンAよりも人口減少を抑制していくことを目指していきます。人口減少を前提としつつも、市としては人口減少対策を優先的に取り組み、独自の対策を講じることで人口減少を緩和させることで、2035年の人口の目標を**23,000人**とします。

	単位:人			
	実績値 2020年	実績値 2025年	推計値 2030年	推計値 2035年
パターン A:ベース推計	29,777	26,569	24,014	21,691
パターン B:全年齢移動均衡	29,777	26,569	24,014	22,403
パターン C:20~30代の移動改善・均衡	29,777	26,569	24,304	22,521

○パターン A:ベース推計

住民基本台帳人口を基準人口とし、推計方法を国立社会保障・人口問題研究所に準拠した場合

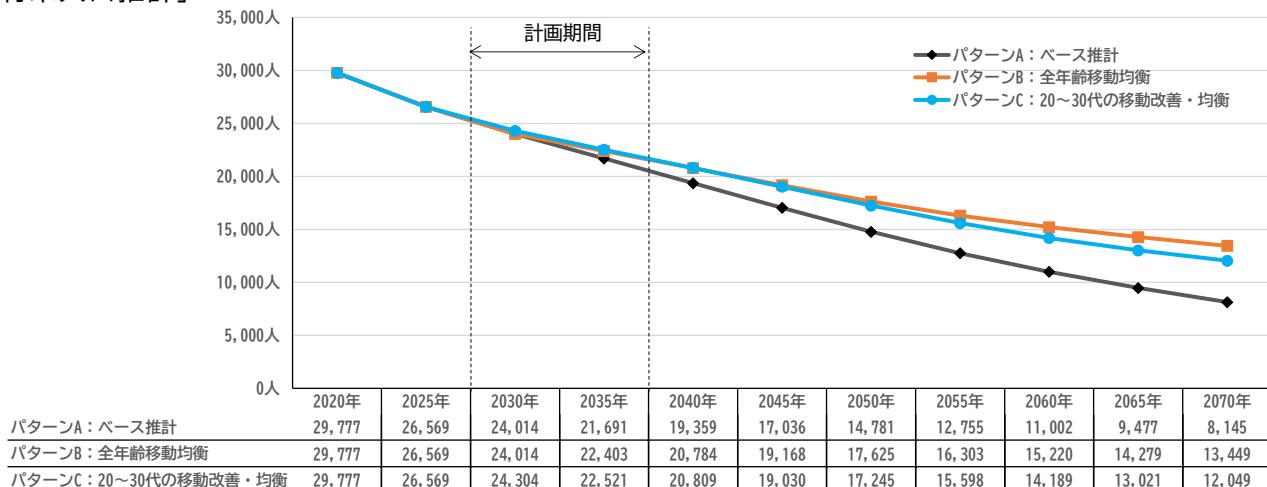
○パターン B:全年齢移動均衡

ベース推計を基準に、2031年以降に全年齢で移動均衡(転入転出の差し引きゼロで実質社会移動がない)した場合

○パターン C:20~30代の移動改善・均衡

ベース推計を基準に、20~30代において、2025年→2030年は、移動率がマイナスの場合は50%改善、プラスの場合はベース推計のままとし、2031年以降は、移動率がマイナスの場合は均衡、プラスの場合はベース推計のままとした場合

[将来人口推計]



データ:住民基本台帳人口を基準とし、将来人口推計のためのワークシート(令和6年6月版)を用いて推計

[自然増減と社会増減の影響度]

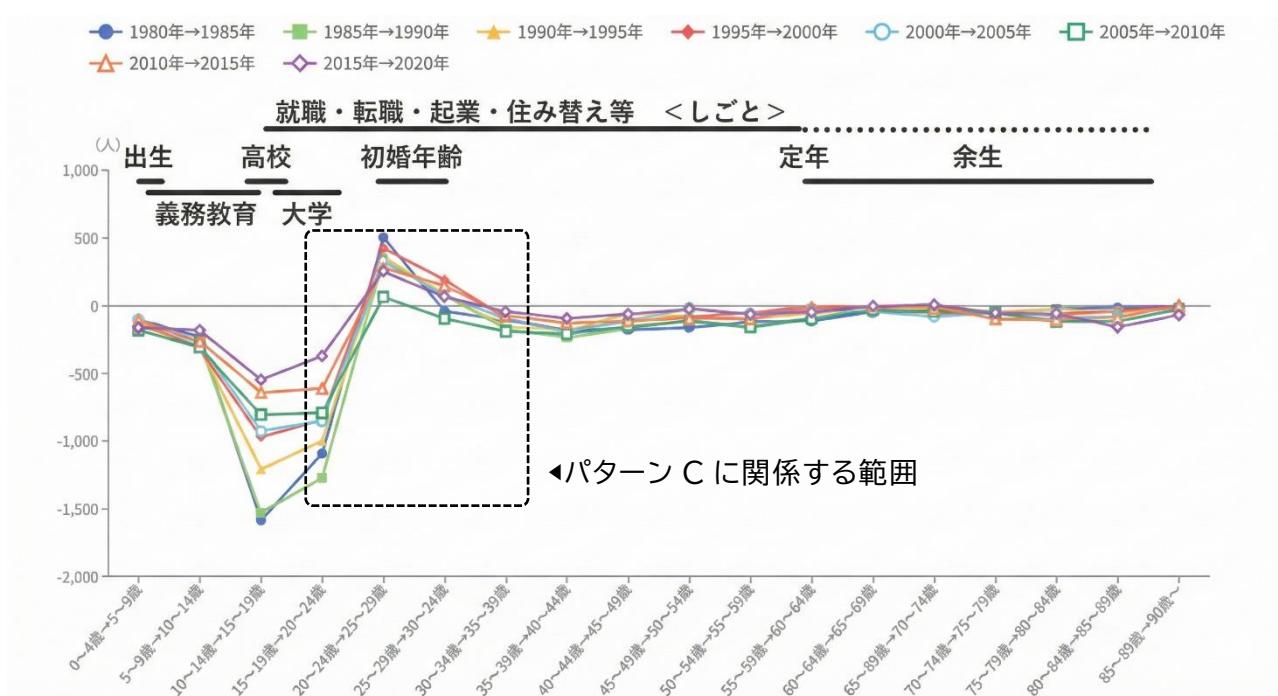
対馬市における人口動態は、自然増減(出生・死亡)よりも、社会増減(転入・転出)が大きく影響すると予想されます。

		自然増減の影響度				
		低い ← → 高い				
		1	2	3	4	5
社会増減の影響度	低い	1	大村市	長崎市・佐世保市・諫早市		
		2				
		3	島原市・長与町 波佐見町・佐々町			
		4	時津町・川棚町	東彼杵町		
	高い	5	対馬市	平戸市・松浦市・ 壱岐市・五島市・ 西海市・雲仙市・ 南島原市・小值賀町・ 新上五島町		

データ：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成（2045年時点の推計）

[年齢階級別純移動数]

大学卒業時期、就職時期、初婚年齢時期に、転入超過の傾向があります。



出典:RESAS 資料を用いて加工

4. しまづくりテーマと目指す姿

10年後の
目標

しまづくりテーマ

目指す姿

心豊かに暮らし続けられる共創・自立・循環の宝島
対馬

ひと	未来をつくる力 が満ちている島	働き手の想いが、島の未来をデザインする
		子育て世代の楽しい生活が、島の活力をつくる
		経験者の知恵、活躍が島の営みを支える
なりわい	多様な働き方で 地域経済を動か している島	新たな技術を取り入れ、 持続可能な産業が展開されている
		働き手が確保できている
つながり	安心と快適が続 く心豊かな暮ら しがある島	暮らしのインフラ・ライフラインを 効率的に維持している
		危機に対する備えが整っている
		居心地のよい地域コミュニティがつくられている
ふるさと	自慢したい島・ 選ばれる島	対馬の豊かな自然・歴史文化が育まれている
		対馬出身者や島外から選ばれる島、歓迎する島とな っている

ひと [人口] | 未来をつくる力が満ちている島

■目指す姿■



働き手の想いが、島の未来をデザインする

市民・行政・企業がみんなでその挑戦を支援・応援することで、活力ある地域社会の再構築を目指します。

人口の社会減・自然減が進むことにより、全ての産業における人手不足が深刻化しています。新たな取組や設備投資も進みにくい状況から、結果として生産性の低い社会になる恐れがあり、これは、対馬の経済活動と社会の活力を低下させる喫緊の課題です。

この状況を開拓するためには、元気な市民・若者が増えることが重要です。そのため、対馬市は、市民が対馬に貢献できている実感が持てるしまづくりを推進していくとともに、特に若者が抱える将来への不安を取り除き、活躍・挑戦できる社会と機会をつくります。



■成果指標 [KGI*]■

●しまづくりに参加している市民の割合が増える

現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
16.6%	40%

データ:市民満足度調査

●自分の将来に希望を持っている若者の割合が増える

現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
61.7%	87%

データ:若者向け調査(対馬市こども計画)



■目指す姿■

子育て世代の楽しい生活が、島の活力をつくる

子どもたちが心身ともに健やかで、活力に満ちた生活を送れるよう、医療、子育て、学びや教育環境を整え、子どもや子育て世代を全力で支援・応援する島を目指します。

対馬市では、将来的に出産可能年齢の女性割合が低くなることが予測されています。さらに、出産数や子どもの減少に伴い、外科、産婦人科、小児科のある病院の少なさや、子どもに豊かな経験を与えてやれないことなど、子育て世帯の不安がますます強くなることが想定され、安心して出産・子育てできる環境整備が必要となります。

出産、子育て、学びの支援に加えて、島外からの子ども達を受け入れる施策の強化として、豊かな自然や歴史文化を活かした島の価値向上や、移住・定住策とも連携して、離島留学*や孫戻し留学*などの運用を推進します。



■成果指標 [KGI]■

●今の自分が好きだと思う子ども・若者の割合が増える

項目	現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
小学5年生	80.2%	95%
中学2年生	63.3%	80%
高校2年生	54.6%	75%
若者*	56.5%	75%

*若者の定義 対馬市在住の19歳～39歳(対馬市こども計画)

データ:子ども子育て支援等に関する調査、若者向け調査(対馬市こども計画)

●出生数の減少を抑える

現状値 (平成28年度～令和7年度の合計)	目標値 (令和8年度～令和17年度の合計)
1,729人	1,410人

データ:住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査／将来人口推計のためのワークシート(令和6年6月版)

●合計特殊出生率が人口置換水準*2.07に近づく

現状値(平成30～令和4年)	目標値(令和17年度計)
1.87	2.07

データ:人口動態調査



■目指す姿■

経験者の知恵、活躍が島の営みを支える

誰もが心身ともに健やかで、年齢や立場に関わらず島の営みを支え、生きがいを持って暮らせる「健康長寿の島」の姿を目指します。

今後、高齢者人口、特に 75 歳以上の方の割合が増加し、対馬の高齢化率はさらに上昇する見込みです。この高齢社会においても、対馬市は「誰ひとり取り残さない島」として、医療・福祉・介護を通じて市民一人ひとりの生活をしっかりと支えます。また、市民が健康づくりに励み、心身ともに健やかな暮らしを維持できるよう推進します。

対馬の強みは、まさに島民一人ひとりの力強さにあります。島には、複数の役割をこなすマルチタスクな市民や、手仕事や確かな技術を持つ方々がたくさんいることが特徴です。これは、島外や若い世代から見れば、極めてたくましい対馬ならではの生き方であり、誇りにすべき価値です。したがって、こうした経験豊かな人々の知恵を次世代へつなぎ、何かの役に立て、誰もが生きがいを持って暮らせる島にしていくための仕組みを大切に育んでいきます。



■成果指標 [KGI]■

●健康寿命*が伸びる

項目	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 17 年度)
男性	78.7 歳	伸ばす
女性	84.1 歳	伸ばす

データ: 第3次健康つしま 21 計画(KDB システム)

●地域活動をしている人の割合が増える(社会的なつながり)

現状値(令和6年度)	目標値(令和 17 年度)
31.7%	増やす

データ: 第3次健康つしま 21 計画(市民意識調査)

なりわい [経済] | 多様な働き方で地域経済を動かしている島

■目指す姿 ■



新たな技術を取り入れ、持続可能な産業が展開されている

稼ぐ力と持続可能性が備わった産業に進化することで、収入が増え、対馬で働くことの魅力が高まり、働き手が増えるという好循環が生まれている島を目指します。

現在、対馬の全ての産業において、稼ぐ力と持続可能性の強化が重要な課題となっています。離島の不利条件の中では、経済の量的な拡大には限界があります。島の生命線である農林水産業、独特の歴史文化や自然を魅力とする観光産業など、ものづくりやサービスの生産力(量)だけでなく、付加価値*(質)をいかに高めるかが問われており、時代に合わせた経営・構造の転換が求められています。この変革を推進する組織のあり方の見直しも必要になってきています。

今後は、対馬の資源・文化・自然などの多様な魅力に、新技術や新たな視点を掛け合わせることで、産業のイノベーション(革新)を図ります。これにより、地域経済を牽引する持続可能で稼げる産業へとアップグレードし、島の活力を高めます。

■成果指標 [KGI] ■



●市内総生産額*が高まる

現状値(令和 6 年度公表値**)	目標値(令和 17 年度公表値)
99,167 百万円	107,000 百万円

*令和 4 年度実績値
データ:長崎県の市町民経済計算

●一人あたり観光消費額が増加する

項目	現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 17 年度)
宿泊客	27,634 円/人	32,000 円/人
日帰り客	15,620 円/人	18,000 円/人

データ:長崎観光統計



■目指す姿■



働き手が確保できている

対馬で働くことの魅力を高め、働く意欲を持つすべての人がいきいきと働ける選択肢や機会をつくります。

対馬市はこれまで、対馬づくり事業協同組合*や島おこし協働隊*といった仕組みにより外部人材の登用を図るなど、対馬に新たな人材を確保することに取り組んできました。しかし、将来を見据えると、生産年齢人口の減少が見込まれており、人手不足や後継者不在による廃業・縮小、そして島外流出のリスクが高まっています。また、そもそも島内に「働きたい」と思える仕事が無いという若者の意見もあり、島の大きな課題です。

この状況を改善するため、副業・兼業への理解醸成、公務員の副業推進による地域産業の維持、中高生に対し地域で働く大人との交流機会づくりや、対馬の産業・仕事の魅力を伝えるキャリア教育の強化、マルチワークやスポットワークの推進、外国人居住者の共生・協働など、多様な仕事や働き方への理解や仕組みづくりを進めます。また、起業・創業・事業承継しやすい環境を整え、対馬に新たな風を吹き込みます。

■成果指標 [KGI]■

●高校生の島内就職率が高まる



データ:市内高校卒業者の就職進学状況調査

●完全失業者*が減る

現状値(令和2年度)	目標値(令和17年度)
530人	280人

データ:国勢調査(5年ごとに実施され、現状値は策定時の最新値)

つながり [社会基盤] | 安心と快適が続く心豊かな暮らしがある島

■目指す姿■



暮らしのインフラ・ライフラインを効率的に維持している

水道・道路・交通・エネルギー・情報などの暮らしに欠かせないインフラ・ライフラインを、地域の状況に応じて、効率的に維持します。

人口減少やインフラ・ライフラインの利用者減少が進む中で、維持や更新にかかる負担が大きくなることが考えられます。このままでは、各施設・設備が地域の暮らしを支える役割を十分に發揮しにくくなり、地域全体の活力への影響や生活への不安が高まることが懸念されます。

したがって、公共施設の集約化、複合化を推進するとともに、インフラ・ライフラインの長寿命化、重点的に維持整備すべき箇所の判断のもとでの整備推進により、持続可能で安定した生活基盤が確保されている島を目指します。

■成果指標 [KGI]■

●建築系公共施設の保有量の適正化が進む

現状値(令和4年度)	目標値(令和17年度)
458,655m ²	400,000m ²

データ:対馬市公共施設等総合管理計画

●暮らしのライフラインの満足度が高まる

現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
24.1%	45%

データ:市民満足度調査



■目指す姿■



危機に対する備えが整っている

地域一体となって防災力・減災力を底上げし、自分たちで安全・安心な暮らしを守ることを目指します。

近年、気候変動により、災害は頻発化・激甚化しています。また、現在、消防団への加入低下、地区防災計画*の策定率が県内最下位という、地域防災体制の整備に課題を抱えています。また、高齢化の進行、コミュニティの希薄化等を背景に、集落単位での支え合いの機能が低下しつつあり、これにより、災害時の孤立、災害時に支援が必要な方々への対応が不十分になることが懸念されます。

自然災害など、対馬にとって脅威になる危機に対し、市民と行政の適切な役割分担、そのための制度や必要な施設の整備を進め、備えを万全にします。

■成果指標 [KGI]■



●自主防災組織*の活動力バー率が増える

現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
38.3%	50%

データ: 総務課地域安全防災室所有データ

●地区防災計画を策定している地区が増える(人口カバー率*)

現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
2.4%	50%

※総人口に対する地区防災計画を策定している地区の人口の割合

データ: 総務課地域安全防災室所有データ／住民基本台帳人口

●防災アプリ登録者数が増える

現状値(令和6年度)	目標値(令和17年度)
4.4%	50%

※総人口に対する防災アプリ登録人数の割合

データ: 総務課地域安全防災室所有データ



■目指す姿■

居心地のよい地域コミュニティがつくられている

昔からある島民のつながりや支え合いの精神を大切にしながら、今の時代に合う無理のないコミュニティのあり方へと移行することで、改めて市民と行政が一体となって「助け合いの連鎖」を生み出し、自立した島を目指します。

人口減少や若年層の減少が進む中で、限られた人数で集落の維持や自治会活動を担うことは、大きな課題となっています。行事や地域活動の継続が難しくなり、住民の負担が増大し、疲弊することも懸念されます。その結果、集落や地域コミュニティの活力が徐々に低下し、地域のつながりや暮らしの支え合いにも影響が及ぶ可能性があります。

こうした課題に対し、地域運営組織*の導入や地域活動の効率化の検討、集落支援員制度や外部企業等との連携、外国人居住者や関係人口による担い手人材の確保など、支えられる側・受け入れられる側の双方が負担なく機能する地域コミュニティを構築します。



■成果指標 [KGI]■

●今後も対馬の暮らしを続けていきたいと思う人が増える

現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 17 年度)
54.0%	60%

データ:市民満足度調査

●地域主導の活動が進められることへの満足度が高まる

現状値(令和 6 年度)	目標値(令和 17 年度)
20.0%	40%

データ:市民満足度調査

ふるさと [島の価値] | 自慢したい島・選ばれる島

■目指す姿■



対馬の豊かな自然・歴史文化が育まれている

森里海のつながりと恵みを再認識し、人と自然との共存共生関係のバランスを保ちながら、自然環境を回復軌道に乗せるとともに、対馬の自然と歴史文化の価値が島内外に深く認識され、その価値が育まれている島を目指します。

山林の機能低下として、水源としての機能や生態系の多様化の低下、海の水産資源の減少や海ごみ・海洋プラスチックなどの問題が悪化することが懸念されます。

これまで進めてきた環境改善の取組を実質化するために、島全体での山林・海域の環境保全や生物多様性の保全とともに、モデルエリアを設定した自然共生の取組の充実や、市民や島外からの担い手を積極的に呼び込んだ対策に取り組んでいきます。

また、歴史文化遺産の保存・整備を通じて、その魅力を高めるしまづくりを推進し、対馬人のアイデンティティ*や精神的基盤づくりを目指します。さらに、普及啓発や教育の深化を進め、対馬のもつ歴史的価値を後世へと継承していきます。

■成果指標 [KGI]■

●豊かな自然環境が回復していることの満足度が高まる

現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 17 年度)
12.5%	25%

データ:市民満足度調査

●市民が環境に負荷をかけない暮らしをしていることの満足度が高まる

現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 17 年度)
19.9%	40%

データ:市民満足度調査

●観光客数に対する博物館等※来館者の割合が増える

現状値 (令和 6 年度)	目標値 (令和 17 年度)
11.5%	15%

※対馬博物館及び市内の歴史民俗資料館等
データ:博物館学芸課所有データ



■目指す姿■

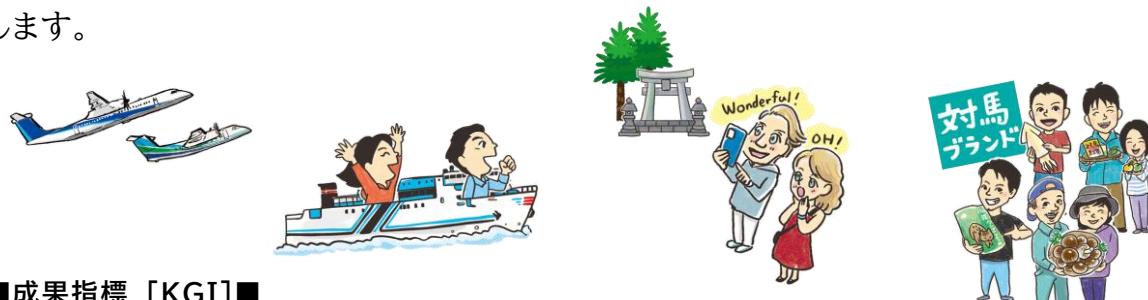


対馬出身者や島外から選ばれる島、歓迎する島となっている

対馬の魅力を島民自身が実感し、誇れる島とともに、他にはない地域の価値を明確に掲げます。こうした島の魅力を発信することで、対馬出身者が一度島外に出ても戻りたくなる U ターンや、島外からの I ターン者・外国人にも選ばれる島を目指します。

一方で、人口減少の進行により、島内産業や地域生活の維持が課題となっており、出生数の減少も続いている。このため、島民の転出を減らし、U・I ターンの促進につなげるため、これまでにない施策の導入が求められます。

島民、特に子どもたちへのふるさと学習の強化、対馬出身者や環境・文化に共感する島外人材に向けた情報発信、住宅や移動手段などの生活基盤整備など、分野横断的な施策を展開します。これにより、島内外居住者や外国人居住者を問わず、対馬の魅力を理解・共感する人々とのつながりを強化し、持続可能な地域づくりを実現します。



■成果指標 [KGI]■

●対馬市の認知度を高める

現状値(令和 7 年度)	目標値(令和 17 年度)
32.4 点	50 点

[参考]2025 年度 第 1 位 62.1 横浜市
データ:地域ブランド調査(ブランド総合研究所)

●転入・転出が均衡方向に近づく

項目	現状値 (平成 28 年度～令和 6 年度)	目標値 (令和 8 年度～令和 17 年度)
超過数※ (転入数－転出数)	−2,818 人	転入数と転出数が 均衡に近づく

※転入数 12,199 人 − 転出数 15,017 人 = −2,818 人 転出超過
データ:人口動態及び世帯数調査

第3章

戦 略

1. 5年間の目標

わくわくと可能性が広がる 未来を育てる行動が展開されている

対馬市が10年後に目指す「共創・自立・循環の宝島」への道のりにおいて、最初の5年間は、市民一人ひとりが主役となり、一歩踏み出す「行動」の段階です。

対馬市の豊かな歴史や自然に誇りを持ち、そこに新しい発想や技術を掛け合わせることで、これまでの日常に「わくわく」するような新しい変化を生み出していきます。大切なのは、一人ひとりの新しいアイデアや挑戦を、島全体で面白がり、応援し合う文化を育むことです。

「自分にできること」を楽しみながら実践し、多様な可能性を共に育む。そのような前向きなエネルギーが島中に満ち、未来を明るく照らす行動が連鎖している状態を目指します。

2. 戦略の方針

5年後の目標	目指す未来	方針	地方創生
わくわくと可能性が広がる未来を育てる行動が展開されている 対馬を盛り上げようとする元気な市民・若者が増えている	ひと なりわい 多様な働き方が浸透している	しまづくりに関与する人材の確保と育成	
		攻め 1-1-1 想いを形にできる人を育てる・応援する	
		守り 1-1-2 誰もが社会に参画できる機会をつくる	
		守り 1-1-3 しまづくりへの参画のきっかけをつくる	
		子育てと子どもの育ちがしやすい環境づくり	
		攻め 1-2-1 子育て・子育ちがもっと楽しくなるしきみをつくる	
		守り 1-2-2 子育て世代・世帯の経済的負担を軽減する	
		守り 1-2-3 安心できる出産の体制を整える	
		守り 1-2-4 対馬っこの郷土愛を育む	
		ミドル・シニア層が活躍し続ける環境づくり	
攻め 1-3-1 ミドル・シニア層の活躍を支援する			
守り 1-3-2 いきいき暮らせる環境を整える			
守り 1-3-3 郷土愛を伝える大人を増やす			
産業構造の変革と維持			
攻め 2-1-1 産業・分野連携で付加価値の高い構造へ転換する			
守り 2-1-2 各産業のしごとの価値と魅力を高める			
守り 2-1-3 島内流通システムを構築する			
対馬の価値の再認識			
攻め 2-2-1 対馬にあたらしい価値を生み出すきっかけをつくる			
守り 2-2-2 事業継続・事業承継を支援する			
守り 2-2-3 起業・創業しやすい環境を整える			
新たな働き方を生む			
攻め 2-3-1 自分らしく働ける選択肢が広がる環境をつくる			
守り 2-3-2 島外企業と連携した仕事づくり			
守り 2-3-3 学び直しの支援			

■攻めの方針とは

「攻めの方針」とは、ひと・なりわい・つながり・ふるさとのそれぞれの分野において、特に力を入れて挑戦する方針として位置づけるものです。新たな価値を生み出すこと、収益構造の変化、島外との関係のもとでの施策推進などを前提条件として推進する方針を描きます。

■守りの方針とは

「守りの方針」は、ひと・なりわい・つながり・ふるさとのそれぞれの分野で、継続的に施策を進めてきた内容、市民生活にとって必要不可欠な内容を維持するために、持続性を重視して行う内容です。守りが盤石であることで、攻めの方針による取組が実行しやすくなるものです。

わくわくと可能性が広がる未来を育てる行動が展開されている

5年後の目標	目指す未来	方針	地方創生
	つながり つながりと便利な生活環境・機会がある	地域交通の再編維持と新たな展開 攻め 3-1-1 移動に困らない新しいモビリティの形をつくる 守り 3-1-2 航路・航空路の利便性を維持する 守り 3-1-3 交通人材を確保する 公共施設の再編維持と活用 攻め 3-2-1 公共施設を無駄なく賢く運営する 守り 3-2-2 インフラを安定的に維持する 集落機能の再編検討 攻め 3-3-1 市街地と集落がつながりで暮らしを高める 守り 3-3-2 コンパクト+ネットワーク+小さな拠点を推進する 守り 3-3-3 地域共生社会を推進する 危機管理と防災機能の維持 攻め 3-4-1 市民主体で、危機への対応力を高める 守り 3-4-2 防災・減災に向けた訓練・知識を浸透する 守り 3-4-3 災害時要支援者に対する支援体制を整える コミュニティ再編と新たな展開 攻め 3-5-1 内にも外にもつながるコミュニティをつくる 守り 3-5-2 地区の魅力を磨き上げる 守り 3-5-3 地区と外とのつながりをつくる	
	ふるさと 島の豊かさが市民の誇りと自慢になり、市内外から注目されている	里地・里山・里海の保全 攻め 4-1-1 里地・里山・里海のいのちを未来につなぐ 守り 4-1-2 対馬固有の生物多様性の保全・管理を進める 守り 4-1-3 環境対策を推進する 守り 4-1-4 海洋資源の保全・管理を進める 歴史文化の活用と保全 攻め 4-2-1 歴史文化を核とした誇れる対馬がつくられる 守り 4-2-2 文化財の保存と継承を進める 守り 4-2-3 郷土愛を伝える大人を増やす <再掲> 宝みがきと地域の自慢 攻め 4-3-1 対馬の価値を内にも外にも自慢する 守り 4-3-2 美しいまちづくりを進める 守り 4-3-3 島外居住者の受入体制を整える 住まいの確保 攻め 4-4-1 住みたい地域に住める仕組みをつくる 守り 4-4-2 地区の魅力を磨き上げる <再掲> 守り 4-4-3 地区と外とのつながりをつくる <再掲>	

ひと [人口] | 未来をつくる力が満ちている島

■目指す未来■

対馬を盛り上げようとする 元気な市民・若者が増えている

元気な市民・若者、外国人居住者が自分の想いを形にできる場づくり、活動やチャレンジを応援する仕組みを整え、誰もが「やってみよう」と思えるエネルギーにあふれた島を目指します。

そのために、一人ひとりの活動を行政や地域が後押しし、みんなの活躍を応援・支援する仕組みをつくることが必要です。

行政の役割 市民がやりたいことをできる環境をつくる。移住の選択肢を広げる

市民の役割 若者・移住者がやりたいことを許容するマインドを持つ

■成果指標 [KPI*]■

指標	項目	現状値	目標値[中間]	目標値
20~30代の若者定着率が高まる 対馬の将来を担う世代の獲得を目指す。 データ:住民基本台帳／将来人口推計のためのワークシート(令和6年6月版)	—	14.6% (令和7年度)	17% (令和12年度)	20% (令和17年度)
対馬市は子育てがしやすいまちだと感じている市民の割合が増える 対馬の将来を担う世代の獲得を目指す。 データ:子ども子育て支援等に関する調査(対馬市こども計画)	未就学児	40.0% (令和6年度)	60% (令和12年度)	68% (令和17年度)
	就学児	39.5% (令和6年度)	60% (令和12年度)	68% (令和17年度)
健診を受ける人が増える 市民の健康意識を高め、元気でいられる期間を伸ばすことで元気な市民を増やす。 データ:令和6年度法定報告、第3次健康つしま21計画	—	42.8% (令和6年度)	48% (令和12年度)	55% (令和17年度)

しまづくりに関する人材の確保と育成

これまでの行動

持続可能なしまづくり人材育成、大学・企業等との共同研究及び実践活動の推進、多様な立場にある人・組織間の交流・連携の強化を推進してきました。この結果、島外の大学や企業等との連携事業は拡大傾向にあり、事業推進を通じて島内企業、団体、学校等との交流機会が増え、対馬の魅力や可能性の再認識、人材育成の機会につながっています。

一方で、しまづくりへの「想い」を持つ人材は生まれているものの、彼らがその「想いを形にしていくプロセス」や「実践を継続していくためのサポート体制」が不足していることが次の課題となっています。

当事業での島外からの参加が増えている一方で、対馬市民の参加が減少傾向にあり、市民への普及啓発や島内人材の掘り起こしに力を入れる必要性が高まっています。



地方創生

攻め

1-1-1 想いを形にできる人を育てる・応援する

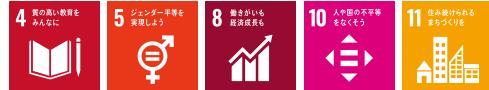
関係部署 | 政策企画課・環境政策課・SDGs戦略課

ねらい

想いを形にできる人を育てる・応援することで、対馬ならではの市民の自己実現がなされる

具体的な方針

- これまでの人材育成の機会を継続しながら、市民が考える新しい事業を実装できる、事業コーディネーターの確保や、サポートする仕組みづくりを行います。
- 島内での事業実装はもちろん、対馬への想いを持ちながら島外で活躍する人材を対馬で育成することにも取り組みます。
- 参加したい市民を増やすための仕掛けの魅力化、参加しやすい場づくりを行います。



地方創生

守り

1-1-2 誰もが社会に参画できる機会をつくる

関係部署 | 総務課・政策企画課・福祉課・長寿介護課

ねらい

年齢、性別、身体的な状況、居住地域、社会的な経験の有無などに関わらず、すべての市民が、それぞれの興味や能力に応じて社会活動に参加できる

具体的な方針

- 高齢者の雇用や生きがいの創出に取り組みます。
- 障がいを持つ方の社会参画、雇用創出に取り組みます。
- 女性が活躍する場づくりに取り組みます。
- 人材育成や活動の前提となる土壌づくりとして、誰もが活動の情報を得やすく、参加しやすい環境を整備します。



地方創生

守り

1-1-3 しまづくりへの参画のきっかけをつくる

関係部署 | 総務課・政策企画課・観光交流商工課

ねらい

島内外の人々が、自分ごととして対馬の課題や未来を捉え、自発的な行動が生まれている

具体的な方針

- より良いしまづくりにむけて、市民の意見や要望を聞くための広聴活動を充実させます。
- しまづくりの状況や行政情報を効果的に発信し、市政への関心を高めます。
- 市民、移住者、移住希望者、観光客、対馬で活動する企業・団体なども含めた幅広い人材にしまづくりへの参画のきっかけをつくります。

モニタリング指標※

- グローカル大学*の島内参加人数
- 対馬 SDGs クラブ*の若者・女性会員数
- 島外の SDGs を推進する企業等との事業数
- 島内の SDGs 推進認定事業所(パートナーズ)*の数

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的数値は資料編に整理。

子育てと子どもの育ちがしやすい環境づくり

これまでの行動

小・中学校での地域を題材とした探究学習において海ごみの問題や SDGs、ICTの活用などの特色ある展開がなされ、対馬高校での韓国語教育コースなど、高校においても特色ある教育が進められてきました。一方で、児童数の減少は続いており、各学校の維持存続が課題となっています。

子育て世代へのサポートとしても、親子イベントの開催、子どもの居場所づくり、待機児童解消、市独自の助成制度などの施策が進められてきました。

また、安心して出産に臨める体制を持つことについては、医療機関の体制の課題がある中での対策の必要性と、産後ケアに対しての取組、その情報周知が課題です。



地方創生

攻め

1-2-1 子育て・子育ちがもっと楽しくなるしくみをつくる

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・SDGs戦略課・教育総務課・学校教育課
中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

対馬っ子だからこそ味わえる対馬ならではの幼少期・青年期の体験が充実し、楽しく子育てができる環境をつくる

具体的な方針

- 地域課題を題材とした、子どもたちの学びの機会充実、そのための地域人材の活躍の仕組みづくり、島外人材、企業との連携の仕組みづくり、特に小規模ならではの環境を活かした学びの機会づくりを行います。
- 島内3高校の特色あるカリキュラムづくりにより、島内の中学生の島内高校への進学や、島外からのしま留学生の増加を図ります。
- 子育てとキャリアを両立する、新しい働き方の実現や親世代の教育への関与の強化を支援します。
- 進学で島外に出る子ども達との関係性を継続します。将来的に帰島することや、対馬への想いを持ち島外で活躍する人材となることをねらいます。





守り

1-2-2 子育て世代・世帯の経済的負担を軽減する

関係部署 | こども未来課・健康増進課

ねらい

子育てに伴う経済的な不安を取り除き、安心して産み育てられる基盤をつくる

具体的な方針

- 家庭の状況やニーズに応じた支援を拡充し、子育てに伴う経済的負担を軽減します。
- 子育てに対して、多様な主体が連携して関わり、安心して対馬で暮らし続けられる環境を整えます。



守り

1-2-3 安心できる出産の体制を整える

関係部署 | 健康増進課・医療対策課

ねらい

すべての妊産婦と家族が安全に出産に臨める体制を確立する

具体的な方針

- 地域医療との連携を強化し、妊娠・出産から産後ケアまで一貫したサポート体制を整えることで、島内で安全・安心に出産・育児ができる環境を整備します。
- 医療関係の担い手確保のため、インターンの受け入れを継続し、離島医療や対馬への関心を持つきっかけをつくります。





守り

1-2-4 対馬つこの郷土愛を育む

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・農林しいたけ課・水産課・教育総務課・生涯学習課
健康増進課・中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

対馬で育つ子どもたちが自らのふるさとに誇りと愛着を持てるよう、多様な学びと体験の機会を提供する

具体的な方針

- 小・中学生を対象とした「島っこ留学」や高校生を対象とした「離島留学」などの取組みを推進し、島外の子どもたちにも対馬の魅力を知る機会をつくります。
- 農業・漁業・林業体験、韓国との交流など、対馬ならではの学びの機会をつくります。
- 地域の大人との交流を深め、ふるさと学習や地域探究活動等を推進することで郷土愛を育みます。
- スポーツ・文化活動を幅広く提供し、保護者・行政・地域が一体となって子どもたちの成長を支えます。
- 郷土料理教室、水産教室などを開催し、子どもの食育を推進します。



モニタリング指標※

- 保育所・認定こども園の利用率
- 离島留学の子どもの数
- 子育て支援センターの利用者数
- 島内高校進学率

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

ミドル・シニア層が活躍し続ける環境づくり

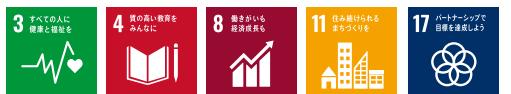
これまでの行動

対馬市はミドル・シニア層の割合が高く、自治活動や地域行事の担い手として、伝統文化の継承や地域コミュニティの維持に欠かせない役割を果たしています。市は、高齢者の雇用や生きがいの創出をめざして、シルバー人材センターや老人クラブ連合会の運営費助成等の支援を行ってきました。

人生 100 年時代と言われ、平均寿命が延伸し続けている現代においては、生涯にわたる学習や無形資産(知識、健康、人間関係など)を豊かにすることが、こうした長寿社会を生き抜くうえで重要になります。

ミドル・シニア層が「支えられる側」ではなく、「地域を支える大切な担い手」として、生涯を通じて活躍し続けられる持続可能な社会づくりが求められています。

また、ミドル・シニア層が島に住み続けるための医療体制の維持と介護サービスの確保については、広域な対馬市、分散する集落での対応を維持する方策について、引き続き検討が必要です。



攻め

1-3-1 ミドル・シニア層の活躍を支援する

関係部署 | 政策企画課・健康増進課・長寿介護課・生涯学習課

ねらい

豊富な知識や経験を持つミドル・シニア層が生涯にわたって生き生きと対馬で暮らせる環境をつくる

具体的な方針

- 事業承継や技術継承、社会教育での活躍など、ミドル・シニア層の知恵や技術を次世代に受け継ぐ機会をつくります。
- 学び直し教育(リカレント教育*・リスキリング*)の場づくり、全島的に参加しやすい仕組みづくりに取り組み、高齢者の雇用促進、地域での活躍の場を広げます。
- 社会課題先進地として、超高齢化集落における大学や外部企業連携による課題解決の事業(高齢社会に対応する商品・サービスの開発など)を検討・推進します。





地方創生

守り

1-3-2 いきいき暮らせる環境を整える

関係部署 | 福祉課・健康増進課・長寿介護課・医療対策課

ねらい

すべての島民が年を重ねても安心して暮らし、島で生涯の最後を迎えることができるよう、生活の安全と健康を守る体制を整える

具体的な方針

- 特定健診受診促進や健康づくりイベントへの参加促進など、健康増進の啓発・情報発信を強化します。
- 医療体制・介護体制を維持し、生活支援・介護予防サービス、介護サービス等の推進を徹底することで、生活不安を解消します。
- 高齢者の見守りに関する施策を実施し、孤立を防止することで、地域に根差した安全・安心の環境を維持します。



地方創生

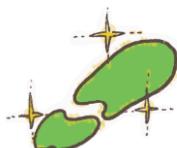
守り

1-3-3 郷土愛を伝える大人を増やす

関係部署 | 博物館学芸課・自然共生課・教育総務課・学校教育課・生涯学習課・文化財課

ねらい

島の人たちが自らのふるさとに誇りを持ち、その価値を子どもたちや島外の人伝え、対馬の個性・特長を将来に継承する



具体的な方針

- 対馬の魅力を再認識し、郷土愛を育む、生涯学習を推進します。
- 子どもたちや島外の人々に、対馬の魅力と誇りを伝えられる市民を増やし、対馬の個性や特長を未来へつなぐ人材を育てます。

モニタリング指標※

- シルバー人材センター登録会員数
- 生涯学習講座の受講者数

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

なりわい [経済] | 多様な働き方で地域経済を動かしている島

■目指す未来■

多様な働き方が浸透している

島民一人ひとりが、それぞれの暮らし方や価値観に合った働き方を選べる柔軟でしなやかな社会をつくり、地域課題に対応できる担い手の確保を目指します。

そのために、島内の資源や文化を生かした地域ビジネスや社会的事業の創出、スキルアップの機会提供を通じて、誰もが自分の得意を活かして活躍できる環境づくりが必要です。

行政の役割 経営を仕組みで支える

市民の役割 将来を見据えた経営をする(海の資源管理、農地林地の保全、商工業の持続など)

■成果指標 [KPI]■

指標	現状値	目標値[中間]	目標値
起業・創業が増える 多様な働き方の創出効果の一つとして、起業・創業を増やす。 データ:政策企画課所有データ(創業支援事業による創業者数)	合計 13 件 (令和 2~7 年度)	合計 15 件 (令和 8~12 年度)	合計 30 件 (令和 8~17 年度)
保育所の待機児童数を 0 にする 保育所に子どもを預けられる保育所等があることで、両親が働きに出やすい環境を整える。 データ:市保有データ	12 件 (令和 6 年度)	0 件 (令和 12 年度)	0 件 (令和 17 年度)

産業構造の変革と維持

これまでの行動

対馬市の産業は豊かな資源と可能性を持ちながらも、担い手不足や所得向上の伸び悩みを抱えています。こうした状況を転換するためには、単に現状維持や一時的な回復を目的とした対策では限界があります。また、離島の条件不利の中での量的な拡大を求める成長戦略には限界があります。産業構造の変革や、持続可能で高付加価値な経済活動へと転換していくことが重要です。

例えば、基幹産業である水産業においては減少する資源回復のための取組が求められる一方で、藻場保全や海ごみ問題に関連した環境産業としての側面、その体験価値も生まれつつあります。

これまでの対馬市を支えてきた産業の維持を図りながら、維持のために新たな変革を与え、若者が対馬の産業に希望と関心を持ち、これからも島で仕事をしたい、住み続けたいと思えるような進化を図る必要があります。



地方創生

攻め

2-1-1 産業・分野連携で付加価値の高い構造へ転換する

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・環境政策課・農林しいたけ課・水産課・建設課
中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

付加価値の高い産業構造への転換を加速し、持続可能な産業の確立と市民の所得を向上させる

具体的な方針

- 企業の多角経営を推進するなど、産業・分野間の連携・組み合わせ（水産業と観光、教育分野の連携、建設業と農業・交通の連携など）による価値の創出を推進・支援します。
- 農林水産業における生産力の向上に加え、体験・ノウハウの商品化（例：農林水産業による体験交流や教育事業としての展開、海・山のカーボンクレジット*、間伐・残渣等のバイオマス燃料*の活用促進、生産者による海域・農地・林地の環境データの計測、企業との連携など）による収益構造の変革を推進します。
- 担い手不足が深刻化する中、あらゆる産業で、DX（デジタル化・自動化・AI 活用・スマート技術*）を進め、一人あたりの生産性を高めます。





2 持続可能な消費と生産



8 繁栄がいる経済成長



9 農業と技術革新の基盤をつくる



11 住み続けられるまちづくり



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守る



15 地の豊かさも守る

地方創生

守り

2-1-2 各産業のしごとの価値と魅力を高める

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・農林しいたけ課・水産課
中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

対馬の自然や歴史、文化によって育まれてきた農林水産・観光資源を次世代に受け継ぎながら価値を高め、魅力ある仕事場として選ばれる

具体的な方針

- 若者が希望を持って島内就職できる魅力的な仕事や優良企業を増やします。
- 水産業では、対馬の基幹産業として第一次産業を牽引し、海洋資源保護(藻場の保全・再生等)と水産資源管理、魚価向上を進めるとともに漁港漁場整備・機能保全を図ります。
- 農業では、畜産・しいたけ生産・戦略農作物(対州そば)等の生産基盤を整え、農業経営の効率化を支援します。
- 林業では、森林環境譲与税*を有効活用しながら、作業環境の整備や新たな収入源(J-クレジット*等)を確保します。
- 商業では、地域生活サービスの充実や観光と連携した消費行動の促進を図ります。また、環境保全と資源循環を両立させながら、魅力ある対馬産品の創出とブランド力の向上を進めます。
- 観光では、韓国人観光客に加え、ほかの外国人や日本人観光客をターゲットとするコンテンツを構築します。
- 工業では、先端技術や先端設備の導入を支援し、労働生産性向上を目指します。



8 繁栄がいる経済成長



9 農業と技術革新の基盤をつくる



11 住み続けられるまちづくり



12 つくる責任つかう責任



17 パートナーシップで目標を達成しよう

地方創生

守り

2-1-3 島内流通システムを構築する

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課・農林しいたけ課・水産課
ねらい

生産地と消費地を円滑につなぎ、付加価値を高めて対馬産品を届けるための島内流通および島外輸送のネットワークを構築する



具体的な方針

- 生産者・加工者・販売者などの連携を深め、輸送や販売の効率化を図ることで、島内経済の活性化と収益確保を実現します。
- 人材を確保し、地域内外の需要と供給をつなぐ強固な体制を整え、多様な対馬産品が安定的に市場へ届けられる環境をつくります。

モニタリング指標*

水産業者の数 認定農業者数 中間管理機構で取り扱う農地面積 林業従事者数

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

対馬の価値の再認識

これまでの行動

創業支援事業や企業誘致事業、起業家育成、島おこし協働隊等の取組・支援を行い、島内に新しい事業者や担い手を確保してきました。

創業・起業などの行動を呼び起こし、人材確保に向けて、人々の「挑戦したい」「面白いことを仕掛けたい」という感情や直感を刺激し、新しいことを仕掛けたい人々の掘り起こしをするとともに、そのような人が対馬で活躍できる場と機会を提供することが課題です。



攻め

2-2-1 対馬にあらわしい価値を生み出すきっかけをつくる

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・農林しいたけ課・水産課・長寿介護課

ねらい

対馬の地域資源や文化的魅力を活かし、島内外の人々が新たな価値創造に挑戦できるきっかけをつくる

具体的な方針

- 起業を志す人に対し、対馬の未活用な地域資源（遊休農地、廃校などの遊休施設、独自の食材、伝統文化など）や切実な地域課題と事業アイデアを結びつけるためのマッチング機会を定期的に提供します。
- どのような地域資源や遊休資産があるかを詳細にリスト化し、島内外に公開することで、地域の事業ニーズを提示し、地域での起業・創業を求めるアクションをつくります。
- 公共施設や遊休地、農地、水域などの利用権利の制約を緩和し、実証実験のためのフィールドとしてリスクを抑えた形（低廉な賃料、一時的な利用許可等）で提供します。
- 市や地域コミュニティが抱える具体的な課題（例：移動困難者対策、環境問題、高齢者の生活サービス提供等）を明確に提示・公募し、「地域課題解決型」の創業を支援・育成します。





守り

2-2-2 事業継続・事業承継を支援する

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・農林しいたけ課・水産課

ねらい

島内で培われてきた技術や経営資源を次世代に円滑に引き継ぐための仕組みを整える

具体的な方針

- 事業の継続に必要な経営改善や生産性向上のための設備整備支援を行います。
- 廃業の危機にある事業者に対し、事業承継の相談窓口をつくり支援します。
- 第三者承継*を見据えた譲り手と受け手のマッチングと掘り起こしの仕組みを構築します。



守り

2-2-3 起業・創業しやすい環境を整える

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

多様な担い手が対馬でスムーズに参入・定着できる環境をつくる



具体的な方針

- 起業・創業を目指す人々に対し、事業計画策定や法務・財務、税務に関する専門的なアドバイスを充実させ、挑戦しやすい環境を整えます。
- 金融機関や商工会等と連携し、創業初期に必要な資金調達(補助金、融資)の情報を一元化し、申請サポートを強化します。
- 起業創業に必要な拠点(事務所、店舗等)の情報、人材確保のための仕組み提示(対馬づくり事業協同組合、スポットワーカー*募集の仕組み等)を行います。

モニタリング指標*

- 創業支援事業による創業者数
- 新規雇用者数(雇用拡充)
- 承継事業による承継件数

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

新たな働き方を生む

これまでの行動

毎年、人口減少とともに、生産年齢人口(15~64歳)が減少し、労働力や地域を支える人々が不足している深刻な状況です。水産業をはじめ、農林業、建設・土木、観光・商工、教育・交流、介護福祉、医療、行政サービス、地域交通、まちづくり、祭り・伝承、環境保全と、あらゆる分野における根源的な課題になっています。

そのような状況下にて、特定地域づくり事業協同組合などの受け皿は、多様な雇用形態(兼業・副業など)や地域に必要な人材の確保に向けた取り組みの第一歩として一定の成果を上げ始めています。一方で、子育てを終えた女性、意欲ある高齢者、高いスキルを持つ移住者など、多様な才能や潜在能力を持つ人材が、既存の雇用環境の制約により、十分な能力を発揮できる機会を持てていないことも指摘されています。



地方創生

攻め

2-3-1 自分らしく働ける選択肢が広がる環境をつくる

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課・こども未来課・長寿介護課

ねらい

働きたい人々が、その能力を活かして自分らしく活躍できる労働環境を整える

具体的な方針

- 多様な人材がそれぞれの能力とライフステージに応じて最大限に活躍できる環境を実現します。
- 子育て中の女性やブランクのある女性の再就職を支援するプログラムを強化し、時短勤務や在宅勤務が可能な職種とのマッチングを促進します。
- シニア層が年齢や体力に合わせて活躍できる場を創出します。
- 地域企業に対し、外部のスキルを柔軟に活用できるよう兼業・副業人材を戦力として受け入れるなど、働き方改革を推進します。





守り

2-3-2 島外企業と連携した仕事づくり

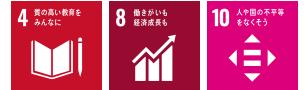
関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課・財産管理運用課

ねらい

島内企業だけでは創出が難しい多様な職種・雇用機会を確保し、雇用の安定性や島民の生活の質を高める

具体的な方針

- 島内企業や市民と、島外企業が連携し、島内産業のレベルアップを図ります。
- 通信環境の整備、島外企業のサテライトオフィス*の整備等の環境づくりを支援し、島外企業を呼び込みます。
- 地理的な制約を受けにくい情報通信業(IT/Web制作)や、企業のバックオフィス業務(経理、事務補助など)をターゲットとしたテレワークの受け皿を確保します。



守り

2-3-3 学び直しの支援

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課

ねらい

市民の能力・意欲の基盤を強化し、働く場へのスムーズな参入を促す

具体的な方針

- 意欲あるすべての人が、働く場へ参入できるよう、個人の能力開発やキャリア転換を支援します。
- 既存のキャリアからの転換を目指す人、ブランクのある人、新たな分野に挑戦したい人等を対象に、学び直しの支援(リカレント教育・リスキリング)や職業訓練の機会を充実させます。
- 学び直し教育について、居住する場所に左右されず「全島的に参加しやすい仕組みづくり」に取り組みます。

モニタリング指標※

- 島内高校新卒者の島内就職者数
- 市委嘱委員の女性委員の割合
- 就業支援による障がい者の就業者数

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的数値は資料編に整理。

■目指す未来■

つながりと便利な生活環境・機会がある

生活に必要な交通や公共施設・インフラが整い、災害に強く誰もが安全・安心に暮らせる環境のもと、年齢・身体・居住地・立場に関係なく、生活・買い物・医療・学び・交流のために行きたい場所に行ける環境、会いたい人や必要なサービス・機会にアクセスできる環境を目指します。

そのために、公共施設の集約化、複合化、インフラ・ライフラインの長寿命化、重点的に維持整備すべき箇所の判断などの考え方のもと、安全・安心な基盤づくりや、誰もが、行きたい場所・必要なサービスにスムーズにアクセスできる仕組みが必要です。

行政の役割

集約化、シェアリング*、外部化などを組み合わせて、効率的にインフラを提供する

市民の役割

地域のインフラを支える一員として関わり、仕組みの転換を行政とともに進める

■成果指標 [KPI]■

指標	現状値	目標値[中間]	目標値
公共交通に関する満足度が高まる 自家用車でなくとも移動しやすい交通環境を目指す。 データ:対馬市地域公共交通計画	49.4% (令和4年度)	50% (令和12年度)	50%以上 (令和17年度)
建築系公共施設の統廃合が進む 財政とサービスのバランスを保ちながら、公共施設機能を維持するために、施設量の合理化・効率化を目指す。 データ:対馬市公共施設等総合管理計画	458,655 m ² (令和4年度)	420,000 m ² (令和12年度)	400,000 m ² (令和17年度)
避難訓練実施地区数が増える 防災・減災の意識や日頃の結束力を高め、非常時に行動できる地区を増やす。 データ:市保有データ	2地区 (令和6年度)	12地区 (令和12年度)	20地区 (令和17年度)
買い物支援を行っている地域の数が増える 市街地から離れている集落であっても生活できる環境を整える。 データ:市保有データ	5地区 (令和7年度)	7地区 (令和12年度)	10地区 (令和17年度)

地方創生

地域交通の再編維持と新たな展開

これまでの行動

現在、島内の交通は、さまざまな手段（路線バス、スクール混乗バス、コミュニティバス、タクシー、乗合・福祉タクシー、レンタカーなど）や自家用送迎・互助で対応しています。現在、飛行機・港と縦貫線の時間調整、対馬病院と上対馬地域への縦貫線の時間調整などを実施していますが、根本的な解決には至っていません。

地域によっては公共交通の便数が限られることもあり、通勤・通学・買い物・医療アクセスに支障が出ることがあります。特に高齢者や買い物弱者にとって、移動の困難さは日常生活の自立や社会参加にも大きく影響します。

市民アンケートの自由記述回答では、交通への不満が 180 件と最も多く寄せられています。特に、島外への交通手段の交通費の高さ、利便性の悪さが指摘されています。また、韓国人観光客の急増により市民が路線バスに乗れないといった事象も発生しており、市民の足の確保が課題となっています。

また、公共交通を提供する交通事業者も近年、さまざまな課題に直面しています。集落が分散するエリアでは、バスの各集落支線の運行維持が課題です。また、運転手不足が深刻化し、全体的な運行ダイヤの確保やサービスの維持に影響を与えています。タクシーについては、特定の時間帯に利用者が集中し、スムーズな利用が困難になっているなどの課題もあります。



地方創生

攻め

3-1-1 移動に困らない新しいモビリティの形をつくる

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・デジタル推進課・観光交流商工課

ねらい

だれもが行きたい場所にスムーズにアクセスできる環境をつくる

具体的な方針

- デジタル技術や ICT を活用したデマンド交通やライドシェア等の仕組みを導入し、地域の実情に応じた効率的で柔軟な島内交通システムを構築します。
- 住民の困りごとを補完するシステムや仕組みを導入し、経済活動や生活利便性の維持、観光の活性化につなげます。





地方創生

守り

3-1-2 航路・航空路の利便性を維持する

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課

ねらい

島内・島外の快適なアクセスを維持し、経済活動、生活利便性の向上につなげる

具体的な方針

- 離島航路・航空路線を維持し、市民の日常的な移動手段や交流人口の活性化に重要な高速移動手段の確保を図ります。
- 引き続き、運賃低廉化を継続します。
- インバウンドの増加による市民生活への影響を踏まえ、市民の足を確保するための対策を検討していきます。



地方創生

守り

3-1-3 交通人材を確保する

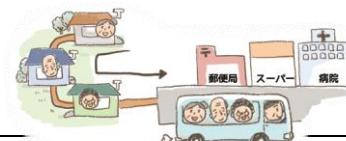
関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課

ねらい

交通従事者が「対馬の暮らしを支える誇りある職業」として定着する仕組みを構築し、公共交通の安定性・利便性を高める

具体的な方針

- 単なる人員不足の穴埋めではなく、働きやすさの向上と多様な人材の参入を促進することで、持続可能な交通インフラの体制を確保します。
- バスやタクシー等の運転に必要な免許等の資格取得支援を行い、若手や未経験者の参入障壁を下げます。
- 特定地域づくり事業協同組合等を活用したマルチワーカーとしての雇用モデルなど、柔軟な働き方による交通人材の確保を図ります。



モニタリング指標※

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 島内航空路利用者数(島民以外) | <input type="checkbox"/> 島内航路利用者数(島民以外) |
| <input type="checkbox"/> 国際航路利用者数 | <input type="checkbox"/> 公共交通利用者数(路線バス等) |
| <input type="checkbox"/> 公共交通利用者数(航路・航空路) | |

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

公共施設の再編維持と活用

これまでの行動

合併前の旧6町時代から整備がされてきた公共施設等が老朽化し、その機能、安全性の維持のためには改修等が喫緊の課題であり、このままでは財政負担の増大や地域サービスの低下が危惧されます。

公共施設の管理について、管理上の課題の整理や今後のあり方は行政計画として整理されてきましたが、人口減少や地域の過疎化、現状施設の活用状況に応じた施設の必要性の再整理や、行政負担の増大への対応などの課題に直面しています。

文化、教育、スポーツなどの建築系の施設運営については、機能集約化や複合化、統廃合による効率化の検討を、また、道路や橋梁、トンネル、水道設備などのインフラについては市民生活の影響の大きさからも、引き続き維持管理、改良が必要とされています。



地方創生

攻め

3-2-1 公共施設を無駄なく賢く運営する

関係部署 | 総務課・財産管理運用課・政策企画課・教育総務課・中対馬振興部地域振興課
上対馬振興部地域振興課

ねらい

人口規模に応じて公共施設を効率的に運営し、財政負担を改善する

具体的な方針

- 市民とともに、市庁舎の建て替えや学校・公共施設の統廃合を検討するとともに、施設の集約化・複合化を進めることで、効率的で持続可能な公共サービスの提供体制を整えます。
- 使っていない公共施設や市有地について、地域活性化に資する事業創出拠点としての活用可能性を検討するとともに、売却、民間への無償譲渡など、財産の処分を検討します。
- 公共施設等の利用状況等を勘案し、必要に応じて縮小または撤退も視野に入れた検討を行います。





守り

3-2-2 インフラを安定的に維持する

関係部署 | 財産管理運用課・基盤整備課・建設課・管理課・水道課・北部土木管理事務
中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

住民生活の安全・安心を確保し、災害や事故などのリスクを低減させる

具体的な方針

- 道路や橋梁、トンネルなどの交通インフラや、水道設備などの社会インフラの計画的な維持・補修を進めます。
- 公共施設・インフラの長寿命化を推進します。



モニタリング指標※

- 改良工事を行う路線数
- 市道整備の事業費に対する執行済事業率
- 橋梁の修繕本数
- 公共施設の利活用数
- 一人あたり公共施設面積

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

集落機能の再編検討

これまでの行動

本市は内陸部のほとんどが山林に占められ、複雑で変化に富んだ海岸線に集落と市街地が点在しています。人口高齢化率がさらに高まることで、市街地部に集中している医療・教育・商業などの機能と、離れた集落との間で生活利便性に差が生じている状況です。加えて、人口減少や少子高齢化も進行している中で、将来的には一部集落では衰退や孤立が懸念される状況にあります。

これまで、各集落は維持するための方策を続けてきましたが、地域にある行政機能や福祉サービスの機能の再編や、インフラの維持管理などが、今後さらに課題になります。



攻め

3-3-1 市街地と集落がつながりで暮らしを高める

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・長寿介護課・医療対策課・建設課・管理課・水道課

ねらい

市街地と市街地から離れた地域の面的なネットワーク構築により、集落の機能・暮らしを維持する

具体的な方針

- コミュニティの維持をしていくためにも、基盤となるインフラや生活サービス等の暮らしを支える機能を集落に効率的に誘導し、エリアでの機能分担を考えます。
- オンライン診療や買い物支援など、辺縁部の集落住民の安心に向けた技術投入や支援策を積極的に検討します。





守り

3-3-2 コンパクト+ネットワーク+小さな拠点を推進する

関係部署 | 総務課・政策企画課・地域づくり課・デジタル推進課・管理課・建設課

ねらい

人口規模に応じて、安全・安心に暮らせる持続可能な生活圏をつくる

具体的な方針

- 市街地では、「コンパクト+ネットワーク」という概念に基づき、生活に必要な機能をコンパクトに集約した地域の形成と、集落間を結ぶ効率的な交通・情報ネットワークを構築します。
- 集落では、生活機能を維持するための「小さな拠点」づくりを推進することで、人口減少においても生活機能の維持、交流・活動の場を維持し、市民が安心して住み続けられる環境を守ります。



守り

3-3-3 地域共生社会を推進する

関係部署 | 総務課・政策企画課・地域づくり課・医療対策課・生涯学習課
中対馬振興部地域振興・上対馬振興部地域振興課

ねらい

住民の孤立を防ぎ、みんなが助け合いながら暮らせる社会をつくる

具体的な方針

- 今ある共助・互助を維持するとともに、すべての市民が孤立せず暮らせるよう、地域で互いに支え合い生活する「地域共生社会」を推進します。
- 住民同士の交流や地域活動を促進することで、見守りや助け合いの機能を地域コミュニティに定着させ、行政サービスだけでは対応しきれない生活の安心を、島全体で守り抜く土壤をつくります。



モニタリング指標*

- オンライン窓口の設置数
- オンライン診療設置
- わがまち元気創出支援事業*採択数

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

危機管理と防災機能の維持

これまでの行動

対馬市は、地震は少ないものの、台風や豪雨、高潮などの自然災害の影響を受けやすく、災害発生時には住民の安全確保や生活の維持が重要な課題となります。特に、広域な市域と、集落の分散は災害対策を困難にし、各集落の人口減少により対策の担い手の不足にも直面しています。

地域防災計画の策定により災害の未然防止と応急対策、災害復旧を位置づけてきましたが、消防団員の確保の難しさなどから、従来の対応だけでは全ての住民を迅速かつ確実に守ることが難しくなっていることに加えて、医療体制も限られている中で、災害時の対応力をいかに高めるかが問われています。



地方創生

攻め

3-4-1 市民主体で、危機への対応力を高める

関係部署 | 地域安全防災室・観光交流商工課・医療対策課・消防本部

ねらい

災害対策を推進するとともに、医療体制の維持に取り組み、市民の安全・安心を守る
具体的な方針

- 災害時だけに使われる防災施設ではなく、平時から地域の人々が集い、使い慣れている施設として機能を高める「平時共用の防災施設機能の充実」を図ります。
- 観光客が災害時に「迷わない・困らない」仕組みを整え、観光危機管理を強化します。
- 一過性の取組にとどめず、防災プログラムや防災人材育成など、防災教育の事業化に取り組みます。





守り

3-4-2 防災・減災に向けた訓練・知識を浸透する

関係部署 | 財産管理運用課 · 地域安全防災室 · 政策企画課 · 地域づくり課 · 消防本部
中対馬振興部地域振興課 · 上対馬振興部地域振興課

ねらい

災害発生時にも地域全体で迅速に対応できる体制をつくる



具体的な方針

- 災害発生の予測には限界があるため、規模や時期に頼らず柔軟に対応できる設計と事前の行動計画をつくります。
- 市民が過去の経験に基づく安全神話を捨て、個人やコミュニティで防災・減災に積極的に取り組めるよう訓練・普及啓発を推進します。
- 共助ネットワークによる避難支援体制の構築や、地域間での相互支援体制を整備するための支援を行います。
- 日頃からコミュニティを深め、災害時に助け合える関係性を育みます。



守り

3-4-3 災害時要支援者に対する支援体制を整える

関係部署 | 総務課 · 地域安全防災室 · 地域づくり課 · 福祉課 · 長寿介護課 · 健康増進課

ねらい

災害時の弱者の孤立を防ぎ、適切な支援を届ける



具体的な方針

- 高齢者や障がい者など災害時要支援者に対しては、所在把握や安否確認が難しくなることを想定し、プライバシーに配慮した情報管理システムや支援体制の整備を進めます。
- 日常的な高齢者等見守り施策や地域活動と連携することで、災害時の対応力を日常から強化します。

モニタリング指標*

- 消防本部からの出動要請に対応する事業所認定数
- 災害時の備蓄倉庫の確保数

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

コミュニティ再編と新たな展開

これまでの行動

地域運営、コミュニティ施策については、地理的な集落の分散とその多さ、地域課題の多様化・複雑化の課題を抱える中で、地域マネージャー制度の導入や「わがまち元気創出事業」の推進など市民参加・協働の仕組みを進めてきました。

一方で、各地域の人口減少、高齢化による地域づくりの担い手確保の難しさはより一層高まっており、これまで以上に地域住民の力を結集するとともに、島内にとどまらない視点や人材を取り込みながら、地域の未来を創造していくことが求められています。これまでの施策に対して、次なるステップが模索されています。



攻め

3-5-1 内にも外にもつながるコミュニティをつくる

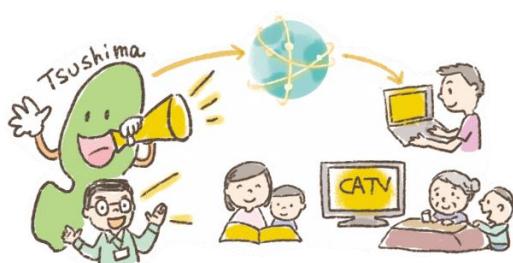
関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・デジタル推進課・中対馬振興部地域振興課
上対馬振興部地域振興課

ねらい

開かれたコミュニティをつくり、島内外で関係人口を確保しながら、持続可能な地域運営を行う

具体的な方針

- 地域マネージャー制度の次なるステップとして、外部集落支援員制度*の活用や生活支援を行う人を地区が雇用する仕組みなど、地域の実情に応じた人材確保の方法を検討します。
- 地域運営組織を核として住民自らがエリアの課題解決や地域づくりに取り組めるよう支援します。
- 対馬に暮らす人々の知恵や経験を土台としつつ、島外に住む対馬出身者や外部人材など地域外からの参加を積極的に促進し、多様な視点や知見を地域づくりに生かします。
- ICTにより島内外(島内に住む市民や島外に住む対馬出身者等)の意見やアイデアを効率的に収集する仕組みを検討し、地域づくりや市政運営への反映を図ります。





守り

3-5-2 地区の魅力を磨き上げる

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・環境政策課・自然共生課・農林しいたけ課・文化財課

ねらい

地区の魅力が内側から高まり、各地区の個性を磨き・育て・伝える

具体的な方針

- 自然環境、歴史的景観、伝行事、食文化など、地区ごとに受け継がれてきた資源を保全・継承します。
- 地域清掃や草刈り、共同作業など、必要な地域活動を大切に守り、継続できる体制を整えます。
- 地区の魅力や暮らしの知恵を記録・共有し、次世代へ引き継ぐとともに、地域内外に向けた情報発信を行います。



地方創生

守り

3-5-3 地区と外のつながりをつくる

関係部署 | 総務課・政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課・福祉課・長寿介護課

ねらい

外との縁や交流を大切に、支え合いの輪を広げ、地区の暮らしを続ける

具体的な方針

- 島内外の地域間の交流・連携を強化します。島外に住む対馬出身者や、これまで地区に関わってきた人々との関係を大切にし、継続的に交流できる機会や仕組みをつくりります。
- 祭りや行事、共同作業など、既存の地域活動を通じて、外部の人が無理なく参加できる関わり方を確保します。
- 地区の情報や日常の発信を強化し、外部からも地区の状況が分かるようにすることで、気にかけてもらえる関係づくりを進めます。



モニタリング指標*

- 生活支援や通いの場を実施する団体数
- 民生委員・児童委員数
- わがまち元気創出支援事業採択数 [再掲]

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

ふるさと【島の価値】 | 自慢したい島・選ばれる島

■目指す未来■

島の豊かさが市民の誇りと自慢になり、 市内外から注目されている

豊かな自然環境と共に存共栄し、地域の人々の暮らしや経済活動、文化活動が営まれる、持続可能な島としてのあり方を目指します。これらが市内外から注目を浴び、ひいては対馬の価値を高め、移住者の確保につながると考えます。

そのためには、豊かな自然・歴史・文化を保全しつつ活かし、対馬の価値をより高めるための、個々の取組(アクション)が活発になるしまづくりが求められます。

行政の役割

利便性と自然環境の保全を最大限両立させるための、島の面的なデザインを行う

市民の役割

環境負荷の少ない暮らしを行い、島の魅力を外に伝える

■成果指標 [KPI]■

指標	現状値	目標値[中間]	目標値
観光客数が増える 多くの人から注目されたことによる効果として観光客数の獲得を目指す。 データ:長崎県観光統計	303,546 人 (令和 6 年度)	392,000 人 (令和 12 年度)	480,000 人 (令和 17 年度)
市内の博物館等の入館者数が増える 対馬の歴史文化に触れる機会を増やし、対馬の良さを伝える。 データ:長崎県観光統計	35,022 人 (令和 6 年度)	54,000 人 (令和 12 年度)	72,000 人 (令和 17 年度)
空き家バンク成約数が増える 移住を考えている人が、住宅を簡単に探すことができる仕組みを整える。 データ:市保有データ	合計 43 件 (令和 3~7 年度)	合計 45 件 (令和 8~12 年度)	合計 90 件 (令和 8~17 年度)

里地・里山・里海の保全

これまでの行動

対馬は、豊かな自然環境に支えられた里地・里山・里海が広がり、多様な生物が共生しています。しかし、人口減少や担い手不足、生活や産業活動による影響などにより、藻場の消失による漁業資源や生物多様性への影響、海ごみの堆積、人手不足により里山・里地の管理追いつかず、林地の荒廃や農地の遊休化など、自然環境の保全と活用のバランスが課題となっています。

これまでも藻場再生の取組や海ごみの回収の活動が実施されてきました。ツシマヤマネコと共に共生するしまづくりの取組も生息域を増やすという成果を上げています。市外からの活動参加者、関心ある企業との連携も進められてきました。

今後、これらの取組が成果を生み出すこと、里地・里山・里海を守る取組をビジネスとして展開することなど、自然と調和した暮らしを描く方策を検討することが必要です。



攻め

4-1-1 里地・里山・里海のいのちを未来につなぐ

関係部署 | 政策企画課・環境政策課・SDGs戦略課・自然共生課・農林しいたけ課・水産課

ねらい

市民一体となって、環境負荷の少ない暮らしを実践し、「自然と共生するしまぐらし」を行う

具体的な方針

- 里地・里山・里海の管理や保全活動、自然共生に取り組む人材を育成します。
- 生活や産業から発生するごみ等について、適切な分別・処理・再資源化を推進し、地域内で循環するモデルを構築します。
- 環境分野をテーマとした研究拠点や次世代への学びや教育の場をつくり、人材育成を行います。
- エネルギーの地産地消や分散型エネルギー*の導入を通じて、地域の自立性を高めます。
- 獣害対策の産業化、担い手確保に向けた新たな制度の検討を進めます。
- 対馬固有の生態系を保全するため、特定外来生物の防除と普及啓発を継続的に進めます。





地方創生

守り

4-1-2 対馬固有の生物多様性の保全・管理を進める

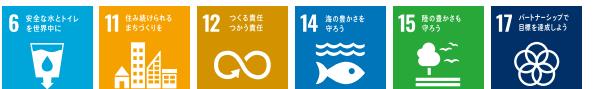
関係部署 | 環境政策課 · 自然共生課 · 農林しいたけ課 · 水産課

ねらい

失われた自然を再生し、対馬固有の生物多様性を将来へ引き継ぐ

具体的な方針

- ツシマヤマネコをはじめとする対馬固有種・希少種の生息環境について、保全・再生・適切な管理を継続的に進めます。
- 里地・里山・里海の管理機能の低下を防ぐため、地域住民や関係団体と連携し、人の手が入る自然環境の維持・再生を図ります。
- 生物多様性に関する調査・研究を継続し、その成果を保全活動や管理手法の改善に生かします。
- 市民や事業者への普及啓発を通じて、生物多様性の重要性への理解を深め、保全活動への参加を促進します。



地方創生

守り

4-1-3 環境対策を推進する

関係部署 | 環境政策課 · SDGs戦略課 · 農林しいたけ課 · 水産課

ねらい

暮らしや産業への影響を抑え、自然環境と生活環境を守る



具体的な方針

- 有害鳥獣による被害を軽減するため、防護・捕獲・利活用を一体的に進め、継続可能な対策体制を構築します。
- 農地や森林の荒廃を防ぐため、管理・保全活動を支援し、環境と生産活動の両立を図ります。
- 漂流・漂着ごみの回収活動を継続するとともに、啓発や連携を強化し、海岸環境の保全を進めます。
- 市民・事業者・関係団体と協働し、環境対策を地域全体で支える仕組みを維持します。





守り

4-1-4 海洋資源の保全・管理を進める

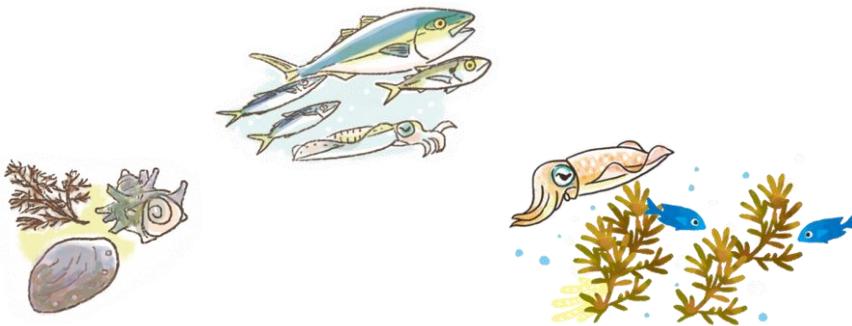
関係部署 | 環境政策課 · SDGs戦略課 · 水産課

ねらい

豊かな海の恵みを将来にわたって維持する

具体的な方針

- 磯焼け対策を計画的に実施し、藻場の再生などを通じて、海洋生態系の回復を図ります。
- 資源管理計画に基づき、漁業者主体による持続可能な漁業の実践を支援します。
- 海洋環境に関する調査・モニタリングを継続し、科学的知見に基づく管理を行います。



モニタリング指標※

- 生ごみ回収協力世帯数
- 有害鳥獣捕獲従事者数
- シカの捕獲頭数
- イノシシの捕獲頭数
- 捕獲隊結成地区数
- 離島漁業再生支援交付金事業実施集落数
- 漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業交付金実施組織数
- 漂着ごみ回収量
- 対州馬の個体数
- ツシマヤマネコの個体数
- ツシマウラボシシジミ保全区数

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

歴史文化の活用と保全

これまでの行動

対馬は古くから独自の文化や国境の島としての貴重な歴史的景観を育んできましたが、その保存と継承については財政的・人的資源が十分とはいえない状況です。また、歴史民俗資料館などの入館者数は目標値に達しておらず、来館者の増加に繋がる展示や教育普及活動の実施についても、人材不足がボトルネックとなっています。

次世代への継承という観点では、ふるさと学習は進められてきたものの、学校教育での対馬固有の歴史文化学習の機会が不足しているという意見が聞かれます。観光活用により歴史文化の普及がなされること、そのための仕組みづくりも求められます。



攻め

4-2-1 歴史文化を核とした誇れる対馬がつくられる

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・博物館学芸課・学校教育課・生涯学習課・文化財課

ねらい

対馬の宝を伝え、活用し、みんなでその価値を広げる

具体的な方針

- 専門ガイドなどがビジネスとして活躍できるよう、歴史文化の価値を伝えることができる人材を育成します。
- 観光やスタディツアーよとの連携を図り、歴史文化を体験できる拠点の設定や、滞在しながら地域を学ぶプログラムの構築などの、市民や観光客が知らなかった歴史文化を知れる機会やきっかけをつくります。
- 博物館等来館者を増やすための展示や教育普及活動に注力し、施設の管理運営事務の効率化・省力化を図ります。





守り

4-2-2 文化財の保存と継承を進める

関係部署 | 政策企画課・観光交流商工課・博物館学芸課・生涯学習課・文化財課

ねらい

対馬の貴重な歴史文化資源の価値を次世代へ守り受け継ぐ



具体的な方針

- 歴史文化資源の保存と継承のための財源を確保します。
- 資料の収集・整理・保全を進めるとともに、調査研究を通じて文化的価値の明確化を図ります。
- 地域住民や関係団体と連携し、文化財を守り伝える担い手の確保・育成を進めます。



守り

4-2-3 郷土愛を伝える大人を増やす <再掲>

関係部署 | 博物館学芸課・自然共生課・教育総務課・学校教育課・生涯学習課・文化財課

ねらい

島の大人たちが自らのふるさとに誇りを持ち、その価値を子どもたちや島外の人間に伝え、対馬の個性・特長を将来に継承する

具体的な方針

- 対馬の魅力を再認識し、郷土愛を育む、生涯学習を推進します。
- 子どもたちや島外の人々に、対馬の魅力と誇りを伝えられる市民を増やし、対馬の個性や特長を未来へつなぐ人材を育てます。

モニタリング指標*

- ガイド登録者数(実働数)
- ガイド人材向け講習参加者数
- ふるさと学習数

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

宝みがきと地域の自慢

これまでの行動

対馬の対外的な情報発信はこれまで実施してきました。対馬の風土、自然、歴史、文化、食など、誇れる島の価値についての発信、移住や関係人口創出の観点からのプログラムの提供を進め、一定の移住者を受け入れてきました。

しかし、市民には、対馬の自然や文化、移住者が増加しているなどの価値が十分に知られないという声が多く聞かれます。

魅力を市民と行政が共有し、対馬で暮らすことへの愛着と自信がさらに高まるよう、対馬の価値を磨き、それを島内外にアピールすることで、一層対馬のファンを増やし、誇りがさらに醸成されていく好循環が求められています。



攻め

4-3-1 対馬の価値を内にも外にも自慢する

関係部署 | 総務課・政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課・中対馬振興部地域振興課
上対馬振興部地域振興課

ねらい

市民の自信と愛着が島外への力強い発信力となり、世界中に「対馬ファン」を増やす
好循環を創出する

具体的な方針

- 市民一人ひとりが対馬の多層的な価値に改めて気づき、「対馬に住んでいること」を誇り(シビックプライド)として語れるようになるよう、対馬について知る機会をつくります。
- 市民やメディアを通じて、プロジェクトの進行過程を伝えることで共感の輪を広げ、参加のきっかけ(関わりしろ)をつくります。
- 国内外で対馬の存在をアピールし、認知度を高めます。





地方創生

守り

4-3-2 美しいまちづくりを進める

関係部署 | 地域安全防災室・政策企画課・地域づくり課・農林しいたけ課・建設課・管理課・文化財課

ねらい

対馬らしさがにじむ美しいまちをつくり、住み続けたい、訪れたい人を増やす

具体的な方針

- 対馬の美しい自然景観や歴史的景観、まちの美観を守るために、景観の保全を進めます。
- 管理者不在の空家・林地・農地の抑制、沿道環境の改善、公共空間の質の向上、歴史的景観の保全、玄関口である港を含む関連施設の整備に取り組み、島の風景を守り再生します。



地方創生

守り

4-3-3 島外居住者の受入体制を整える

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・観光交流商工課・管理課・中対馬振興部地域振興課
上対馬振興部地域振興課

ねらい

関係人口・交流人口など多様な人々を受け入れる体制を整え、地域の活力を維持する

具体的な方針

- 島外居住者が対馬の暮らしや魅力を感じ、しまぐらしを体験できる受入体制を整備します。
- 対馬の玄関口である港や空港の案内機能の向上、景観整備、島内地域への快適な移動手段を確保します。

モニタリング指標※

- 公式 SNS 登録者数
- 修学旅行の受入件数
- 学校給食における地元産品使用率
- ふるさと納税寄付件数

※目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

住まいの確保

これまでの行動

空家の老朽化や仮壇・家財の残置、さらに「知り合いであれば貸しても良い」という心理的・慣習的障壁などにより、不動産市場に流通しない物件が多数あります。これにより、移住を希望する人々や、特定の期間だけ滞在したいニーズがあるにもかかわらず、「住む場所が見つからない」という機会損失が発生しています。また、対馬空港以南には不動産業がありますが、対馬空港以北では、不動産流通の枠組みが無く、移住者が安く家を見つけることが難しい状況です。

対馬で暮らしたいと願う人が、希望する地域で安心して生活を始められる仕組みを整えることは、人口減少が進む中において、将来世代に地域をつなぐために極めて重要です。また、地域に増加する空家・空地を有効活用することは、住まい確保の課題解決に繋がるだけでなく、地域の景観保全や防災、コミュニティの維持にも効果があります。



攻め

4-4-1 住みたい地域に住める仕組みをつくる

関係部署 | 政策企画課・地域づくり課・中対馬振興部地域振興課・上対馬振興部地域振興課

ねらい

対馬に戻りたい！住んでみたい！住んで良かった！住み続けたい！という人が移住・定住できる住まいを確保する

具体的な方針

- 移住希望者が必要とする住まいの情報に速やかにアクセスできる環境を整え、不安解消につながる相談体制を確保します。
- UI ターンを希望する方に対して、移住総合窓口を中心に、住まい探し、仕事探し、子育てや生活環境への不安への対応を行います。
- 空家の利活用に取り組むコーディネーター人材や民間団体を育てることで、土地の流動性を高め、空家解消を図ります。
- 空家の家財道具片付けや改修に対する支援を行います。





地方創生

守り

4-4-2 地区の魅力を磨き上げる <再掲>

関係部署 | 政策企画課 · 環境政策課 · 自然共生課 · 農林しいたけ課 · 文化財課

ねらい

地区の魅力が内側から高まり、各地区の個性を磨き・育て・伝える

具体的な方針

- 自然環境、歴史的景観、伝行事、食文化など、地区ごとに受け継がれてきた資源を保全・継承します。
- 地域清掃や草刈り、共同作業など、必要な地域活動を大切に守り、継続できる体制を整えます。
- 地区の魅力や暮らしの知恵を記録・共有し、次世代へ引き継ぐとともに、地域内外に向けた情報発信を行います。



地方創生

守り

4-4-3 地区と外のつながりをつくる <再掲>

関係部署 | 政策企画課 · 地域づくり課 · 観光交流商工課 · 管理課 · 中対馬振興部地域振興課
上対馬振興部地域振興課

ねらい

外との縁や交流を大切に、支え合いの輪を広げ、地区の暮らしを続ける

具体的な方針

- 島内外の地域間の交流・連携を強化します。島外に住む対馬出身者や、これまで地区に関わってきた人々との関係を大切にし、継続的に交流できる機会や仕組みをつくります。
- 祭りや行事、共同作業など、既存の地域活動を通じて、外部の人が無理なく参加できる関わり方を確保します。
- 地区の情報や日常の発信を強化し、外部からも地区の状況が分かるようにすることで、気にかけてもらえる関係づくりを進めます。



モニタリング指標*

- 移住者数
- 空き家バンク登録数

*目指す未来の成果を測る KPI を補完し、対策を進める上で現状把握や動向のフォローアップを目的として継続的に観察・記録する指標。具体的な数値は資料編に整理。

資料編

(1) SDGs 関連表

 <p>1 貧困をなくそう</p>	<p>1. 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ</p>	 <p>10 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を是正する</p>
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>2. 飢餓をゼロ 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする</p>
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>3. すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>	 <p>12. つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4. 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>	 <p>13 気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る</p>
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p>5. ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>	 <p>14 海の豊かさを守ろう 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>6. 安全な水とトイレを世界中に すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p>	 <p>15 土地の豊かさも守ろう 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>	 <p>16 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>8. 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する</p>	 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>	

[構想]

	SDGs(持続可能な開発目標)17 の目標番号																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
ひと																	
働き手の想いが、島の未来をデザインする				●				●		●							●
子育て世代の楽しい生活が、島の活力をつくる			●	●						●							●
経験者の知恵、活躍が島の営みを支える			●	●				●		●							
なりわい																	
新たな技術を取り入れ、持続可能な産業が展開されている								●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
働き手が確保できている				●				●		●	●						●
つながり																	
暮らしのインフラ・ライフラインを効率的に維持している						●	●			●	●						
危機に対する備えが整っている										●		●					●
居心地のよい地域コミュニティがつくられている								●		●							●
ふるさと																	
対馬の豊かな自然・歴史文化が育まれている				●		●				●	●	●	●	●	●	●	●
対馬出身者や島外から選ばれる島、歓迎する島となっている				●				●	●	●							●

注:特に関わりが深いと考えられる SDGs の目標に●印をつけている。なお、●印がない目標との関係を否定するものではない。

[戦略]

	SDGs(持続可能な開発目標)17 の目標番号																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
ひと																	
1-1-1 想いを形にできる人を育てる・応援する				●				●	●		●						●
1-1-2 誰もが社会に参画できる機会をつくる				●	●			●		●	●						
1-1-3 しまづくりへの参画のきっかけをつくる										●					●	●	
1-2-1 子育て・子育ちがもっと楽しくなるしくみをつくる				●				●		●							●
1-2-2 子育て世代・世帯の経済的負担を軽減する	●		●							●	●						●
1-2-3 安心できる出産の体制を整える			●					●		●							●
1-2-4 対馬っこ郷土愛を育む			●	●						●							●
1-3-1 ミドル・シニア層の活躍を支援する			●	●				●		●							●
1-3-2 いきいき暮らせる環境を整える			●							●							
1-3-3 郷土愛を伝える大人を増やす				●				●		●							●
なりわい																	
2-1-1 産業・分野連携で付加価値の高い構造へ転換する	●	●						●	●	●		●	●	●	●		●
2-1-2 各産業でしごとの価値と魅力を高める		●						●	●		●	●	●	●	●		
2-1-3 島内流通システムを構築する								●	●		●	●					●
2-2-1 対馬にあたらしい価値を生み出すきっかけをつくる								●	●		●	●		●			●
2-2-2 事業継続・事業承継を支援する								●	●		●	●					
2-2-3 起業・創業しやすい環境を整える								●	●		●						●
2-3-1 自分らしく働ける選択肢が広がる環境をつくる					●			●		●							●
2-3-2 島外企業と連携した仕事づくり								●	●		●						●
2-3-3 学び直しの支援					●			●		●							
つながり																	
3-1-1 移動に困らない新しいモビリティの形をつくる									●	●	●	●					
3-1-2 航路・航空路の利便性を維持する									●	●	●	●					
3-1-3 交通人材を確保する									●	●		●					
3-2-1 公共施設を無駄なく賢く運営する				●				●	●		●	●					●
3-2-2 インフラを安定的に維持する						●			●		●	●					

	SDGs(持続可能な開発目標)17 の目標番号																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
3-3-1 市街地と集落がつながりで暮らしを高める			●						●	●	●						
3-3-2 コンパクト+ネットワーク+小さな拠点を推進する			●					●	●	●	●						●
3-3-3 地域共生社会を推進する			●						●	●							●
3-4-1 市民主体で、危機への対応力を高める			●	●				●	●		●		●				●
3-4-2 防災・減災に向けた訓練・知識を浸透する				●						●		●					●
3-4-3 災害時要支援者に対する支援体制を整える			●						●	●							●
3-5-1 内にも外にもつながるコミュニティをつくる								●	●		●						●
3-5-2 地区の魅力を磨き上げる				●						●	●			●			●
3-5-3 地区と外のつながりをつくる										●							●
ふるさと																	
4-1-1 里地・里山・里海のいのちを未来につなぐ					●			●	●		●	●		●	●		●
4-1-2 対馬固有の生物多様性の保全・管理を進める					●		●				●			●	●		●
4-1-3 環境対策を推進する						●				●	●		●	●			●
4-1-4 海洋資源の保全・管理を進める											●	●	●				
4-2-1 歴史文化を核とした誇れる対馬がつくられる					●			●		●							●
4-2-2 文化財の保存と継承を進める					●					●							●
4-2-3 郷土愛を伝える大人を増やす <再掲>					●			●		●							●
4-3-1 対馬の価値を内にも外にも自慢する								●		●	●						●
4-3-2 美しいまちづくりを進める										●	●				●		
4-3-3 島外居住者の受入体制を整える									●		●						●
4-4-1 住みたい地域に住める仕組みをつくる									●		●	●					●
4-4-2 地区の魅力を磨き上げる <再掲>					●						●	●			●		●
4-4-3 地区と外のつながりをつくる <再掲>										●							●

注:特に関わりが深いと考えられる SDGs の目標に●印をつけている。なお、●印がない目標との関係を否定するものではない。

(2) モニタリング指標一覧

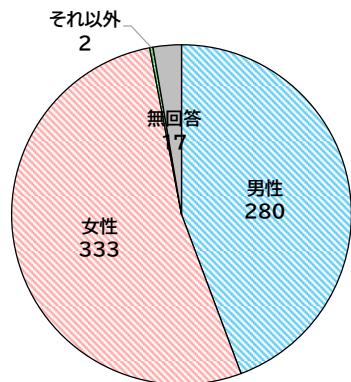
	単位	年度										
		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
ひと 【人口】 未来をつくる力が満ちている島												
しまづくりに関与する人材の確保と育成												
グローカル大学の島内参加人数	人	115	95	72	65							
対馬SDGsクラブの若者・女性会員数	人	-	44	130	128							
島外のSDGsを推進する企業等との事業数	件	-	0	4	5							
島内のSDGs推進認定事業所(パートナーズ)の数	件	-	22	21	16							
しまづくりに関与する人材の確保と育成												
保育所・認定こども園の利用率	%	103.5	96.2	94.2	84.8							
離島留学の子どもの数	名	21	22	23	29							
子育て支援センターの利用者数	人	9,094	7,938	11,158	12,234							
島内高校進学率	%	72.7	70.3	71.5	70.4							
ミドル・シニア層が活躍し続ける環境づくり												
シルバー人材センター登録会員数	名	168	181	95	99							
生涯学習講座の受講者数	人	1,205	1,100	1,295	1,377							
なりわい 【経済】 多様な働き方で地域経済を動かしている島												
産業構造の変革と維持												
水産業者数	人	1,022	969	973	938							
認定農業者数	人	56	56	58	54							
中間管理機構で取り扱う農地面積	ha	250	276.7	298.2	319.6							
林業従事者数	人	112	114	119	120							
対馬の価値の再認識												
創業支援事業による創業者数	件	1	0	1	1							
新規雇用者数(雇用拡充)	人	54	35	18	6							
継承事業による承継件数	件	1	0	0	0							
新たな働き方を生む												
島内高校新卒者の島内就職者数	人	32	29	19	28							
市委嘱委員の女性委員の割合	%	26.3	26.6	27.9	28.3							
就業支援による障がい者の就業者数	人	5	8	13	10							
つながり 【社会基盤】 安心と快適が続く心豊かな暮らしがある島												
地域交通の再編維持と新たな展開												
島内航空路利用者数(島民以外)	万人	8.7	11.7	12.3	11.6							
島内航路利用者数(島民以外)	万人	9.1	12.1	13.5	12.3							
国際航路利用者数	万人	0	0.5	32.8	40.5							
公共交通利用者数(路線バス等)	万人	31.2	30.3	30.3	32.5							
公共交通利用者数(航路・航空路)	万人	30.6	40.8	46.6	45.2							
公共施設の再編維持と活用												
改良工事を行う路線数	路線	11	11	11	11							
市道整備の事業費に対する執行済事業率	%	100	100	100	100							
橋梁の修繕本数	橋	10	4	6	2							
公共施設の利活用数	施設	2	3	5	7							
一人あたり公共施設面積	m ²	16.1	16.5	16.7	17.1							
集落機能の再編検討												
オンライン窓口の設置数	件	-	-	-	-							
オンライン診療設置	件	-	-	-	-							
わがまち元気創出支援事業採択数	件	11	8	7	8							

	単位	年度									
		R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
危機管理と防災機能の維持											
消防本部からの出動要請に対応する事業所認定数	事業所	42	31	31	30						
災害時の備蓄倉庫の確保数	箇所	1	2	2	2						
コミュニティ再編と新たな展開											
生活支援や通いの場を実施する団体数	団体	86	91	74	84						
民生委員・児童委員数	人	137	128	128	128						
わがまち元気創出支援事業採択数 [再掲]	件	11	8	7	8						
ふるさと【島の価値】 自慢したい島・選ばれる島											
里地・里山・里海の保全											
生ごみ回収協力世帯数	世帯	2,097	2,207	2,288	2,342						
シカの捕獲頭数	頭	11,200	10,379	8,626	7,421						
有害鳥獣捕獲従事者数	人	256	242	229	228						
イノシシの捕獲頭数	頭	8,361	2,827	3,780	6,488						
捕獲隊結成地区数	地区	20	21	21	22						
離島漁業再生支援交付金事業実施集落数	集落	41	40	39	39						
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業交付金実施組織数	組織	20	22	22	22						
漂着ごみ回収量	m ³	7,416	8,989	7,781	7,123						
対州馬の個体数	頭	38	38	44	44						
ツシマヤマネコの個体数	頭	100弱	100弱	100弱	100弱						
ツシマウラボシジミ保全区数	箇所	31	34	34	34						
歴史文化の活用と保全											
ガイド登録者数(実働数)	人	15	16	20	20						
ガイド人材向け講習参加者数	人	—	—	—	9						
ふるさと学習数	校	全校	全校	全校	全校						
宝みがきと地域の自慢											
公式SNS登録者数	人	15	16	20	20						
修学旅行の受入件数	校	0	5	13	22						
学校給食における地元産品使用率	%	19.0	18.5	18.5	17.5						
ふるさと納税寄付件数	件	14,587	13,723	15,307	12,943						
住まいの確保											
移住者数	人	141	126	167	141						
空き家バンク登録数	件	36	35	32	34						

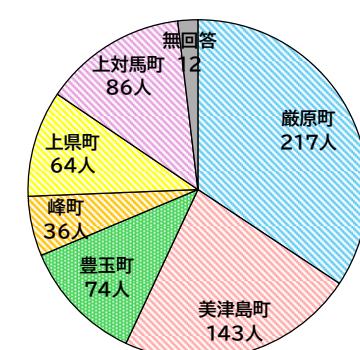
(3) 市民意向調査結果(抜粋)

名 称	対馬市民のしまづくり満足度アンケート調査
目 的	対馬での暮らしや仕事、環境等に関する市民の考え方や満足度など伺い、その結果を「第2次対馬市総合計画」の進捗や成果を評価するため
調 査 時 期	令和 7 年 1 月 14 日～令和 7 年 2 月 14 日
概 要	対象:市民(無作為抽出) / 回答方法:紙・WEB / 回答数:632 通

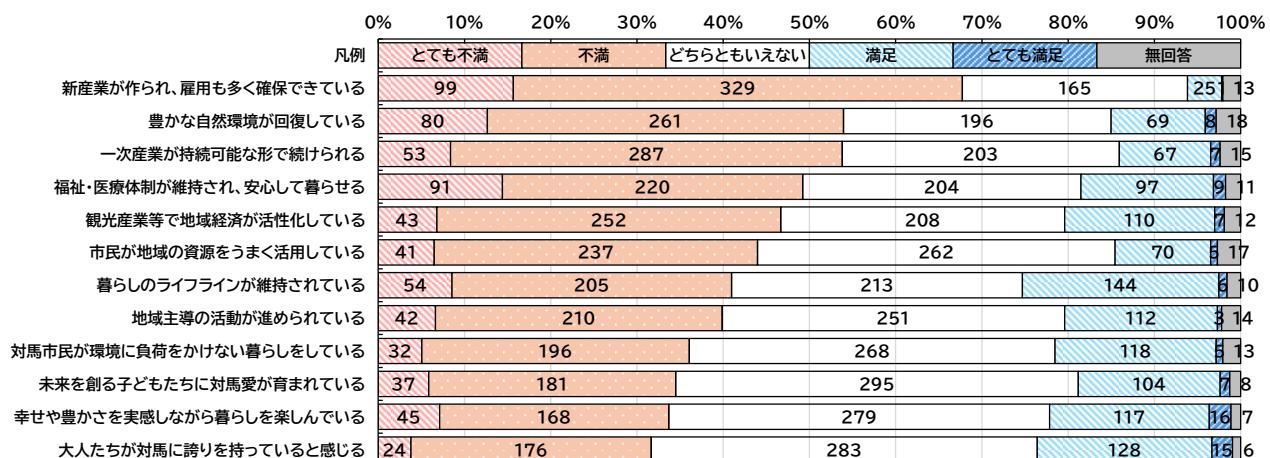
■回答者属性(性別)



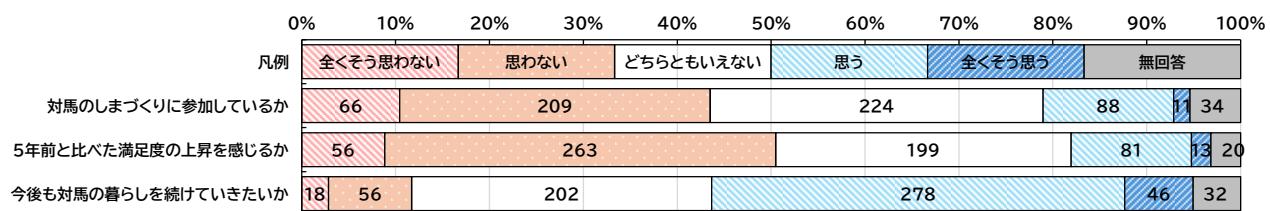
■回答者属性(回答者居住地)



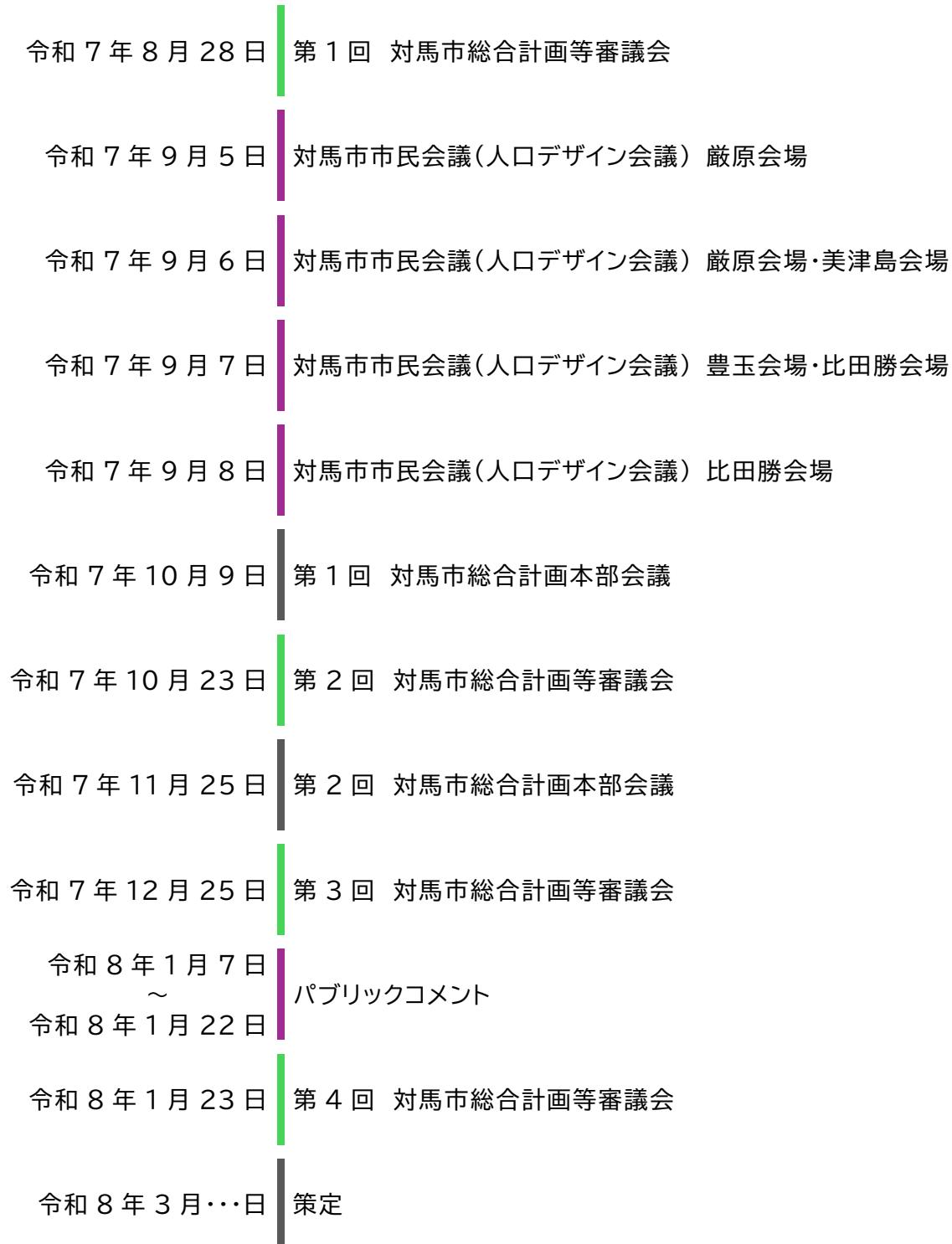
■対馬のしまづくりの状況をどう感じているか(単数回答):満足度



■対馬ぐらし全体に対する意向(単数回答)



(4) 計画策定経緯



(5) 対馬市市民会議(人口デザイン会議)開催結果

対馬市では、出生数の減少(自然減)に加え、進学・就職・医療などを理由とした「島外転出(社会減)」が続き、人口減少が続いています。人口減少は、私たちが生活の中で実感しつつも、どう向き合えば良いのか分かりづらく、「自分ごと」にしづらい抽象的な課題です。しかし、対馬の将来を考えるうえでは重要な課題でもあります。

そこで今回、市民で集まり、生活実態と照らし合わせながら人口問題について考察してみる新たな試みとして、「人口デザイン会議」を開催しました。

人口デザイン会議では、市民同士の対話を通じて「誰が」「なぜ」島を離れているのか、また「どんな人を呼び込みたいのか」を言葉にして共有し、明らかにすることを目指しました。この場で出た意見や気づきは、行政の施策だけでなく、事業者や市民一人ひとりの日々の心がけや行動にも活かせるヒントが詰まっています。

開催概要

島内の会場で6回、オンラインで2回開催しました。年齢は中学生から、お住まいは対馬在住の方から東京・埼玉・京都・福岡など他県在住の方まで、さまざまな立場の皆さんにご参加いただき、参加者数は全体で94名となりました。

日時	会場	参加人数
令和7年9月5日(金) 18-20 時	対馬市交流センター3階	20 名
令和7年9月6日(土) 10-12 時	対馬市交流センター3階	12 名
// 15-17 時	美津島文化会館3階	13 名
// 19-20 時半	オンライン	10 名
令和7年9月7日(日) 10-12 時	豊玉文化会館1階	9名
// 15-17 時	上対馬総合センター2階	7名
// 19-20 時半	オンライン	9名
令和7年9月8日(月) 18-20 時	上対馬総合センター2階	14 名



まとめ

人口減少を完全に止めることは難しいですが、対馬は一度出て行っても帰って来やすい島、挑戦できる島、心豊かに暮らせる島としての魅力を磨けば、“循環する人口”となっていく可能性が見えてきました。

今回の会議を通じて、「若者の挑戦と帰還を歓迎する文化」「暮らしの安心を支える教育・住宅・医療・移動」「多様な人を受け入れる開かれたコミュニティ」「市民が対馬の良さを誇れること(まずは知ること)」などが重要なテーマとして導かれました。

『転出』に関する意見

島外に出ていく人たちのリアルな実態が浮かび上がってきた。

統計だけでは見えなかった具体的な転出の人物像とその背景・事情が浮かび上りました。繰り返し出したキーワードは、教育・仕事・医療・移動・家族関係や人間関係でした。

進学のため	就職のため	子育てのため	医療・介護のため	コミュニティ離脱
高校で希望の部活や学科を求めて。大学や専門学校がなく離島。	キャリアアップや安定収入、島にない職業選択を求めて都市へ。	教育・遊び場の選択肢が少なく、子どもの育ちへの不安が背景に。	病気・入院・介護を期に島外へ。免許返納など移動不便も要因に。	狭い人間関係や監視的な空気を嫌って島外へ。

一度出ること自体は悪くない、戻って来やすい環境が大切。

島外に出さないのは健全ではない。進学や就職を経験することで成長でき、また、島外出で気づく対馬の良さがある。だからこそ、「出たい人を無理に引き止めない」「出た後に戻って生き生きと暮らせる環境を整える」という考え方が多く挙げられました。

そのうえで、子どものうちに対馬でのびのびと過ごした原体験をつくること、島の歴史や文化・自然などに触れてすばらしさを知っておく経験の重要性が指摘されました。

教育	収入・働き方	くらし・移動	医療・介護	コミュニティ
小学校の維持。高校生アルバイト解禁で島内で働く経験を。特色ある学校づくり（韓国語・水産などの専門分野）。資格が取れるように。	若者が安定して生活できる職業・働き方の改革。副業兼業、リモートワークを柔軟に。最低賃金の引き上げ。起業を支援。企業誘致。	準島民制度の柔軟化。交通費補助による帰省しやすさ確保。軽く帰ってこれたら対馬に居続けるという意見も。	医療不安大きい。医者や看護師の人手不足解消、遠隔診療、高齢者移動支援など拡充できないか。恵まれていることをアピールすることも重要。	出入り自由な雰囲気づくり。対馬には人の温かさがあるのが魅力。今のコミュニティをなくさない。

『転入』に関する意見

逆に、「こんな人に対馬に来てほしい」人物像を出してみた。

定住だけでなく、多拠点居住や関係人口も含めて多様な関わり方が期待されています。

子育て世代

子育て世帯、20～30代の若い家族。シングルマザーやシングルファザーも大歓迎。自然豊かなところで子育てしたい人。

対馬を愛せる人

地区、対馬に対してリスペクトがある人。地域のルールを守れる人。対馬に魅力を感じてくれる人。

ビジネス・挑戦

一次産業をした人。対馬に少ない職業や分野にビジネスチャンスを感じて新たな風を吹き込んでくれる人。

性格・価値観

自然や釣りや韓国が好き。不便さも楽しめる。ポジティブ。好奇心旺盛。自分を持っている。コミュニケーションがとれる。

都会の人

都会に疲れた人。島外で学んだことを対馬で活かしたい人。リモートワーカー、多拠点居住、中長期滞在など幅広く。

住まいや仕事の安心を確保し、対馬に移住できる環境・雰囲気をつくる。

外から人を呼び込むには、受け入れる側の姿勢が問われる、という意見がありました。「他の自治体がやっているからやる」という横並びの発想ではなく、対馬市の本気の取り組みが求められています。なかでも、すぐに住める家が見つからないことは障壁になっており、家を見つけるのに2～3年かかった例も。気軽に引っ越すにはハードルが高いままです。こうした障壁を一つひとつ解消し、受入環境を整えることが必要です。

住宅確保

空き家バンクが機能していない。移住者が住める住宅がない。空き家・土地・田畠を使っていないなら未来のために手放して、必要な人に譲る。

しごと

事業継承のしくみづくり。職場環境を改善する。社宅により仕事と家と一緒にマッチング。個人ではなく組織で一次産業をできたら。

若者に訴求

20～30代の女性（少ない世代の人）や子育て世代の移住に他よりも手厚く移住補助を！キレイな住宅が必要。保育園留学など中長期滞在を。

島の価値を理解

まず対馬の人が対馬を知ること。原体験として小学校の時から郷土学習をしっかり行う。対馬の人が韓国を知り関わる機会を持つ。

移住者を歓迎する

「よく帰ってきたね」とitionerを歓迎する雰囲気・態度を示す。離れた人に「また来よ」と言って、帰って来てもらう機会をつくる。

(6) 用語集

あ

アイデンティティ

個人または地域が持つ独自の価値観・文化意識。

移動均衡

地域間の人口移動がバランスしている状態のこと。

イノベーション

新しい価値や仕組み、商品・サービスを生み出すこと。またそれを社会や経済に実装する過程。政策領域では地域産業の活性化や新規事業創出を支える概念。

か

外部集落支援員制度

集落の担い手不足を補うため、外部人材を集落支援員として配置する仕組み。地域活動や移住・定住支援と連携する。

カーボンクレジット

カーボンクレジットとは、CO₂を減らした・吸収した努力を「価値」に変えて取引する仕組み。森林整備や藻場の再生、再生可能エネルギーの活用などの取組による削減できる CO₂排出量を計測・認証しクレジット化するもの。

完全失業者

仕事がなく調査期間中に収入を伴う仕事を少しもしなかった者のうち、就業が可能で求職活動をした者及び求職活動の結果を待っている者をいう。

合計特殊出生率

ある年の年齢別出生率を合計した値で、1人の女性が一生のうちに平均何人の子を産むかの推定値。人口の長期的推移を見る指標として用いられる。

交通 DX

交通分野におけるDXの応用として、例えば予約・運行・決済などのプロセスをデジタル化し効率化すること。需要に応じた効率的な運航や、使いやすいサービス、運営の省力化や人手不足へ

の対策として、地域交通の課題解決や利便性向上を目指すもの。

グローカル大学

対馬という島全体を学びと研究のフィールドと捉え、地域課題の解決に取り組みながら、国内外に通用する視野と専門性を備えた人材を育成するための取組。対馬市、国内外の大学・研究機関、地域団体、事業者等が連携し、教育・研究・人材育成を通じて「地域(ローカル)」と「世界(グローバル)」をつなぐ仕組みとして展開されている。

健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。

さ

シェアリング

物やサービスを共同で利用する仕組み。地域資源の効率的活用につながる。

自主防災組織

地域住民が自ら組織する防災活動主体。避難訓練や災害時の相互支援などを地域で担う。

市内総生産額

市内で一定期間に生み出された付加価値の総額。自治体の経済活動の大きさや成長を把握するために使われる。

島おこし協働隊

市が 国の「地域おこし協力隊」制度 を活用して設置している組織・仕組み。地域の活性化や定住促進を図るために、都市地域出身者などの外部人材を受け入れ、「島おこし協働隊員」として任用している。

社会増減

転入と転出の差により生まれる人口の増減のこと。転入が多い場合は社会増、転出が多い場合は社会減となる。

人口置換水準

人口を維持するために必要な出生率の水準。一般に合計特殊出生率が約 2.07 であるとされ、この水準を下回ると人口減少が進むとされる。

スマート技術

AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、ビッグデータなどの先端技術を活用し、情報通信技術(ICT)を駆使して、日常生活や業務、社会システムをより効率的で快適に、最適化する技術や仕組みのこと。

生物多様性

生物に関する多様性を示す概念である。生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを指す。生態系の多様性、種多様性、遺伝的多様性(遺伝子の多様性、種内の多様性ともいう)から構成される。

森林環境譲与税

森林整備や環境保全を支援するため、国が自治体に配分する税財源の仕組み。

ステークホルダー

政策や事業に関わる利害関係者全般を指す用語。

スポットワーカー

1日単位や数時間単位など、短時間・単発で働く就労形態の労働者のこと。スマートフォンアプリやオンラインプラットフォームを通じて仕事と人を即時にマッチングする仕組みが普及し、近年急速に拡大している。

た

第三者承継

事業や企業の事業承継において、親族外の第三者へ承継すること。中小企業支援で重要な選択肢となっている。

地域運営組織

地域の課題解決や住民サービス向上のため、住民主体で運営される組織。コミュニティ形成や地域資源活用に寄与する。

地区防災計画

行政区ごとに地域の災害リスクに対応する防災体制や行動計画をまとめたもの。住民参加型防災の基盤となる。

地方創生 2.0 基本構想

国が2025年6月に閣議決定した、今後の地方創生の方向性を示す枠組みです。これまでの「地方創生」から進化させ、これから約10年間に取り組むべき方針や政策体系を示している。政

策形成の5本柱として、安心して働き・暮らせる地方の生活環境創生、付加価値創出型の地方経済創生、地方への人・企業分散、新技術の活用、広域連携が示される。

地方版総合戦略

地方版総合戦略とは、2014(平成26)年に制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、都道府県や市町村がそれぞれの実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策について、各自治体の現実の課題等に応じて具体的な施策と数値目標を定めた行動計画。

対馬づくり事業協同組合

対馬の地域事業者などで構成された事業協同組合であり、「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」に基づく特定地域づくり事業協同組合制度を活用して設立された団体。地域内の複数事業者の仕事を組み合わせて通年の雇用を創出し、安定的な生活と地域への定着を促す仕組みづくりを目指している。

デマンド型乗り合いタクシー

予約時に利用者の需要に応じて運行ルートや時間を決める乗合タクシー。従来の定時・定路線ではなく、利用者ニーズに柔軟に対応する形態。

は

バイオマス燃料

木材、家畜ふん尿、食品廃棄物、農作物の残さなど、生物由来の資源を原料としてつくられる燃料。

分散型エネルギー

地域ごとに小規模な発電・蓄電システムを配置するエネルギー供給モデル。災害対応や循環型社会の形成に寄与する。

ま

孫戻し留学

市外在住の児童・生徒が対馬市内に住む祖父母等(親戚でも可)の家から通学する留学制度。祖父母等と同居しながら対馬市の学校に通うことで、家庭の支えを受けながら地域で生活し、学ぶことができる。

ライドシェア

人口減少や高齢化により既存の公共交通の維持が困難となる中、地域の移動手段を確保するための補完的な仕組み。自家用車の活用や事業用車両や既存の送迎車両等を含む地域の交通資源を共有し、デジタル技術を活用して移動需要と供給を効率的に結びつける仕組み。自治体や事業者の管理のもと、安全性を確保しつつ、地域の実情に応じた柔軟な交通サービスを提供することが期待されている。

リカレント教育

学校教育を終えた後も、就労と学びを繰り返し行う、社会人の学び直しの考え方。

リスクリング

社会や産業構造の変化に対応するために、これまでとは異なる新しいスキルを学び直し、職業能力を再構築すること。新しい職務や役割への対応、未経験の分野、新事業展開など仕事を変える前提で行う学び直しのこと。

離島留学

対馬市が実施している教育制度で、島外の児童・生徒が対馬市内の小学校・中学校に入学または転学し、地域の自然環境や歴史・文化の中で学ぶ機会を提供するもの。この制度は、対馬市の教育振興と学校・地域の活性化を目的としており、豊かな自然体験や地域の人々との交流を通じて、子どもたちの学びと成長を応援する。

わがまち元気創出支援事業

公益を目的とした自主性のある市民活動の創出や、市民活動団体の自立化に向けた支援を目的とした、市民が主役のまちづくり事業の展開を支援する事業。

ABC

Jークレジット

省エネ設備の導入や再生可能エネルギーの活用による CO₂ 等の排出削減量や、適切な森林管理による CO₂ 等の吸収量を、クレジットとして国が認証する制度のこと。クレジットは、販売・購入することができ、クレジット創出者は販売により経済的な利益を得ることができる。

KGI

Key Goal Indicator の略で、重要目標達成指標といい、最終的に達成すべき目標のこと。

KPI

Key Performance Indicator の略で、重要業績評価指標といい、目標達成に向けた取組の進捗状況を把握するための指標のこと。

MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)

複数の交通手段(バス・タクシー・自転車等)を1つのサービスとして統合し、検索・予約・決済を一括で行う移動サービス。地域の交通利便性向上や生活の質の改善を目指す。

SDGs推進認定事業所(パートナーズ)

SDGs の達成に向けた取組または対馬市 SDGs アクションプランに沿って活動することを宣言した企業、団体等のこと。

わくわくと可能性が広がる
未来を育てる行動が
展開されている島



第3次対馬市総合計画